

美専シラバス 2026

bisen Syllabus 2026

ビジュアルアート科3年制版 [第2版]



学校法人 クリエイティブA
長野美術専門学校

美専シラバス 2026

bisen Syllabus 2026

ビジュアルアート科 3 年制版 [第 2 版]

美専シラバス2026【ビジュアルアート科3年制学科】 目次

ページ	科目名	代表配当 学科・年次	科目区分	講座種	選択種
p. 1	クリエイティブワーク総論 A・B・C・D	全科-1,2,3,4	専門	講義・演習	CD・VD・VA必修科目/OA選択必修
p. 2	色彩	全科-1	専門	講義・演習	必修科目
p. 3	キャリア講座 A	全科-1	一般	講義・演習	CD・VD・VA選択必修/OA選択
p. 4	キャリア講座 B	全科-2	一般	講義・演習	CD・VD・VA選択必修/OA選択
p. 5	マーケティング	CD・VD・VA-2	一般	講義・演習	CD・VD必修/VA選択
p. 6	DTP理論	CD・VD・VA-2,3	専門	講義・演習	選択科目
p. 7	エディトリアルDTP	CD-2,3,4・VD3	専門	講義・演習	CD・VD3選択必修/VA3選択
p. 8	アート研究	CD・VD・VA-2	専門	講義・演習	選択科目
p. 9	コンセプトチュアルアーツ	CD-3・VD3・VA	専門	講義・演習	選択科目
p. 10	映像理論B	CD・VD・VA-2,3	専門	講義・演習	CD・VD選択必修/VA・OA選択
p. 11	美術学習論	CD・VD・VA-1	専門	講義・演習	選択必修
p. 12	キャリアデザインA	CD・VD・VA-1	一般	講義・演習	必修科目
p. 13	キャリアデザインB	CD・VD・VA-2	一般	講義・演習	必修科目
p. 14	コピーライティングA	CD・VD・VA-2	専門	講義・演習	CD・VD必修/VA選択
p. 15	映像表現	CD・VD・VA-2,3	専門	講義・演習	選択科目
p. 16	マンガ概論	CD・VD・VA-1	専門	講義・演習	選択科目
p. 17	キャラクター概論	CD・VD-1,VA-;	専門	講義・演習	選択科目
p. 18	インターンシップA	全科-1	一般	講義・演習	選択科目
p. 19	インターンシップB	全科-2	一般	講義・演習	選択科目
p. 20	インターンシップC	VA-3	一般	講義・演習	選択科目
p. 21	WEB表現	全科-1,2,3,4	WEBメディア	講義・演習	CD・VD選択必修/VA・OA選択
p. 22	アートコマース・リサーチ	VA-3	専門	講義・演習	選択科目
p. 23	ファインアートA	CD-1・VA	ファインアート	実技	選択必修
p. 24	ファインアートB	CD-2・VA	ファインアート	実技	選択必修
p. 25	ファインアートC	VA-3	ファインアート	実技	選択必修
p. 26	コミックスアートA	CD-1・VA	アニメキャラクター・マンガ	実技	選択必修
p. 27	コミックスアートB	CD-2・VA	アニメキャラクター・マンガ	実技	選択必修
p. 28	コミックスアートC	VA-3	アニメキャラクター・マンガ	実技	選択必修
p. 29	ライン別ゼミA・B	CD・VD・VA-1,2	総合	実技	必修科目
p. 30	自由実践A・B・C・D・E・F・G・H	全科-1,2,3,4	総合	実技	選択科目
p. 31	美術学習論実習A・B・C・D	全科-1,2,3,4	共通	実技	選択科目
p. 32	グラフィックデザイン基礎A	CD・VD・VA-1	デザイン	実技	必修科目
p. 33	グラフィックデザイン基礎B	CD・VD・VA-1	デザイン	実技	必修科目
p. 34	グラフィックデザイン基礎C	CD・VD・VA-1	デザイン	実技	必修科目
p. 35	ビジュアル表現	CD・VD・VA-1	共通	実技	必修科目
p. 36	タイポグラフィ1	CD・VD・VA-1	デザイン	実技	CD・VD必修/VA選択
p. 37	レイアウトデザインA	CD-2・VD	デザイン	実技	VD3・CD選択必修/VA選択
p. 38	ムービーメイキングA・B・C	CD・VD・VA-2,3	映像	実技	CD・VD3選択/VD2・VA選択必修
p. 39	写真表現A・B・C	CD・VD・VA-2,3	映像	実技	選択必修
p. 40	イラストレーションA・B・C	CD・VD・VA-2,3	イラストレーション	実技	CD・VD選択/VA選択必修
p. 41	描写A	CD-2・VA	共通	実技	CD選択必修/VA必修
p. 42	描写B	CD-1・VA	共通	実技	CD選択必修/VA必修
p. 43	描画表現A	CD-2,3・VD3・V	共通	実技	VD必修/VA・CD・OA選択
p. 44	描画表現B	CD-2,3・VA・O	共通	実技	選択科目
p. 45	総合制作1・2	CD・VD・VA-1,2	共通	実技	必修科目
p. 46	総合研究A	CD・VD・VA-3	共通	実技	必修科目
p. 47	プロモーションワークA・B・C・D	全科-1,2,3,4	総合	実技	必修科目/VD3・VA3・CD選択・OA選択
p. 48	プロモーション講座A・B	全科-1,2	総合	実技	選択必修/OA選択

授業科目名	クリエイティブワーク総論A・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1・2・3・4年次	2(32)
必修・選択	必修(C・Dは選択)	その他履修条件	A…全科の1年次 / B…全科の2年次 / C…VA3・VD3・CDの3年次 / D…CDの4年次に配当					
開講期	通年	代表曜日・時限	月1・2	資格対応	—			
担当教員	小林勝彦・松本直樹						講師の実務 経験	20年 アートディレク ター 以上
授業概要	毎回、本校の教員や外部講師を、月1回程度のペースでゲストとして招き、その職業やこれまでのキャリアについての講話や講義を受けます。 これにより、自身が履修している科目が何のために必要なのか、将来どのように結びついていくのかを考え、クリエイティブの学びへの理解を深めます。 ゲスト講師は、クリエイティブの各分野において専門的な職能と職域を有しています。その講話は、自身の進路を考えるうえで得難い「道しるべ」となる はずです。							
授業方法	講義中心の授業です。毎回、授業で取り扱うトピックスは異なります。これに合わせ授業担当講師の他に1～3名ほどのゲスト講師をお招きします。必要に 応じてワークシートを配布し、基本的に授業内での完成をめざします。							
授業目標	知識・創意・観点	講義やワークシートを通し、考えや気づきをまとめる						○
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	ゲスト講師に質問などをし、積極的に授業へ参加する						◎
	目的意識・共感性	各講師の思想や考え、あるいは現場でのエピソードなどを通しワーク（仕事）について理解を深める						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計（点）	
	ワークシートやその他提出物		20	—	20	20	60	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	40	—	40	
	合計（点）		20	—	60	20	100（点）	
評価の特記事 項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 2/3以上の出席を満たさない場合、補講への出席や追加課題の提出を求めます。							
テキスト・教 材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、および本校講師を招き授業を行う							
2回～4回	随時、ゲスト講師を招く							
5・6回	総合制作のための集中講座							
7回～8回	随時、ゲスト講師を招く							
備考								
時間外での学 修	授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。							
講師の実務経 験と授業の関 係	アートディレクターの観点から、様々なプロをゲスト講師として招聘し、現場で要請される様々な視点や考えを講義を通して学びます。							
受講生への メッセージ	毎回、様々なジャンルのプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	色彩		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火・3	資格対応	色彩士検定3級			
担当教員	松本小百合						講師の実務 経験	—
授業概要	プロのデザイナーやアーティストは、正しい理論の裏付けを持って色彩にたずさわる必要があります。この授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて行われている「ADEC 色彩士検定」の教材を用い、色が知覚されるしくみから、色彩調和に必要な配色技法までを講義と演習により学びます。							
授業方法	毎回テキストにそって講義を行い、必要な場合演習も行います。							
授業目標	知識・創意・観点	どんな演習課題も丁寧に仕上げる						○
	技能・成果	ADEC色彩士検定3級取得に挑戦						○
	意欲・自主性・姿勢	この授業で得た知識を他の授業や個人の創作につなげようという姿勢を持ち全8回の授業に出席						◎
	目的意識・共感性	ADEC色彩士検定3級相当の基礎理論の習得						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物		10	10	—	10	30	
	受講態度		—	—	20	—	20	
	授業内テスト		—	—	—	50	50	
	合計(点)		10	10	20	60	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 出席と授業最終日に行うADEC色彩士検定3級模擬試験の結果が評価に大きく関わる。 授業内テストの結果が、規定の点数に満たない場合は、別途補講を受講するものとする。							
テキスト・教材	『Color Master BASIC』『色彩士検定3級』 ノートパソコン、演習に必要な画材(アクリルガッシュ等)はその都度事前にお知らせする							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、講義・演習 第1章「色のなりたち」							
2回	講義・演習 第2章「混色」							
3回	講義・演習 第3章「色の表示方法」							
4回	講義・演習 第4章「色の知覚的效果」							
5回	講義・演習「補色対の調色」							
6回	講義・演習 第5章「色の心理的效果」							
7回	講義・演習 第6章「色彩調和」							
8回	ADEC色彩士検定3級模擬試験							
備考								
時間外での学修	授業内で理解できなかった内容は、時間外に教科書を理解できるまで読み返していただくこと。							
受講生へのメッセージ	色を感じ伝えることはとても楽しいことです。その楽しみを知ると様々なところで活用したくなります！ 自分以外の人に色を正確に伝えたり、理論を踏まえたビジュアル表現ができるよう基礎知識をしっかりと学んでいきましょう。							

授業科目名	キャリア講座A			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	—	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	CD・VD・VA条件付き選択必修 OA選択	その他履修条件	【履修上の注意】「キャリア講座A」は、「キャリアデザインA」を履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・1	資格対応	日本語検定3級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Aは自身のキャリアについて考え、自己探求を目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感性や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、少人数グループで学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝える 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能・成果	-					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	正しい日本語を理解し、日本語検定3級認定を目指す。授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	評価方法							
	提出物		10	—	5	5	20	
	資格試験		20	—	—	—	20	
	グループワーク		10	—	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	—	30	
	合計（点）		50	—	40	10	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 日本語検定の受験、第8回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	キャリア心理学ライフデザインワークブック・日本語検定公式練習問題集3級・日本語検定受験料3,800円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【積極的傾聴・効果的質問】キャリア講座Aの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[発信力・傾聴力]							
第2回	【日本語検定対策①】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第3回	【日本語検定対策②】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第4回	【日本語検定対策③】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第5回	【日本語検定対策④】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第6回	【日本語検定対策⑤】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第7回 11月6日 (金)	日本語検定3級受験日							
第8回	【ふりかえり】キャリア講座Aをふりかえり、自身の変化に気付く。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。							
時間外での学修	日本語検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	自分自身のキャリアをデザインするには自己を探究し、自己理解を深めることが第一歩です。自己を理解し、自分自身を人に伝えられるようになりましょう。キャリア講座Aの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	キャリア講座B			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	—	全科共通	2年次	1(16)
必修・選択	CD・VD・VA選択必修 OA選択	その他履修条件	【履修上の注意】「キャリア講座B」は、「キャリアデザインB」を履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・2	資格対応	ビジネス能力検定3級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(＝デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Bはキャリア講座Aに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに人間力を養うことを目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感力や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、少人数グループで学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す						◎
	目的意識・共感性	社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	—	5	5	20	
	資格試験		20	—	—	—	20	
	グループワーク		10	—	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	—	30	
	合計(点)		50	—	40	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 ビジネス能力検定の受験、第8回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 ※キャリア講座Aにて日本語検定を受験していない学生は、上記成績評価の要件に11月6日(金)日本語検定の受験も含まれます。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・ビジネス能力検定3級受験料3,800円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【自己理解①】キャリアデザインBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。自身の人生や仕事をしていく上での目指す姿や目標を考える。[主体性]							
第2回-第5回	【ビジネス能力検定対策①②③④】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。[課題発見力・規律性]							
第6回 6月8日(月)	ビジネス能力検定3級受験日							
第7回	【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。[規律性]							
第8回	【ふりかえり】キャリア講座Bをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]							
備考	授業の実施時期・曜日または時間に変更になることがあります。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	卒業後の自分自身を意識し、自分で道を切り拓いていける力を身につけていきましょう。キャリア講座Bの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	マーケティング		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	一般	—	CD・VD・VA-2	2年次	1(16)
必修・選択	VD・CD必修／VA選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	—			
担当教員	和田邦彦						講師の実務 経験	○
授業概要	「マーケティング」の概念・手法はビジネスだけのものではなく、さまざま分野でも応用されています。「マーケティング」を知ることによって創作のヒントを得て活用できることにもなります。『SWOT分析』などのフレームワークを利用して「私たちを取りまく課題や問題」を解決する方法を学びます。							
授業方法	「マーケティング」の基本的な概念を映像資料などを紹介しながら講義を進める授業展開をしています。課題は3題(3回)を予定しています。提出期限があります。課題(作品)は授業内で共有します(予定)。また、最終課題(作品)は講座終了後に校内に掲示(匿名)することもある。ワークシート(記入ノート)に各自がまとめて学修してもらいます。副教材として購入した本「マーケティング」を読破して欲しい。							
授業目標	知識・創意・観点	「マーケティング」の手法・概念を創作活動をはじめ様々な場面でに活かせることを実感する						◎
	技能・成果	社会の変化や行動変化に新しい視点を手に入れ、創作に活かす能力を育成する						○
	意欲・自主性・姿勢	マーケティング&ブランディングに興味・関心を持ち能動的に学び理解・活用しようとする意欲の継続						◎
	目的意識・共感性	「マーケティング」の多岐にわたる概念を理解して知識・スキルとして蓄積する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	課題の完成度		10	10	10	10	40	
	まとめ(課題提出の遅延)		—	10	20	10	40	
	受講状況(出席等を含む)		—	—	10	10	20	
	合計(点)		10	20	40	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。ワークシートの記入は各自に任せます。提出は求めません。課題は提出を求めます。提出の遅延・未提出は成績評価に多大に反映します。							
テキスト・教材	「新版 通勤大学MBA2 マーケティング」総合法令出版株式会社(記入用)＝講師が用意した配布(予定)							
その他参考書	授業内容に合わせたワークシート(冊子)を配布する(予定)							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	『マーケティングとは?』マーケティングの必要性、各分野でのマーケティング プロセス 4P マーケティングの定義							
2回	『自社(自分)を知る?』 4P STP セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング ポジショニング・マップの作成							
3回	前回までの学習についてテキストを用いて復習、マーケティングの変遷							
4回	『SWOT分析』 「S:強み」「W:弱み」「O:機会」「T:脅威」からクロスSWOTを活用して各自が決めたテーマを分析する							
5回	『ブランドって?』ブランド・エクイティ、ブランディング、知的財産権(商標権)							
6回	『MMって?』製品政策 ブランド ネーミング パッケージング 保証やサービス							
7回	『PLCって?』導入期 成長期 成熟期 衰退期							
8回	『Promotion』プロモーション政策 プロモーションの手段 プロモーション・ミックス 総括							
備考	8回の授業展開は内容(回)の順序が変わっていくこともある。							
時間外での学修	「マーケティング」の概念が社会生活において当たり前存在しています。例えば、新商品開発や商品のランキング、テレビ番組での紹介、ネットショッピング、CM等、リアル店舗における商品陳列・POP等にもマーケティングの手法が活用されいます。日常の消費行動の際に「マーケティングとは?」という視点で観察することが、リアルタイムにマーケティングの学習になります。							
受講生へのメッセージ	マーケティングの学ぶことで、クリエイティブな活動の一助となると思います。世の中を見渡すことも大切です。あらゆる分野への興味・関心、探究心が知識・能力の蓄積をもたらして創作時の発想・創意や意欲の喚起に繋がると思います。							

授業科目名	DTP理論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			講義・演習	専門	—	全科共通	2・3年次	2(32)	
必修・選択	選択	その他履修条件	—						
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木3	資格対応	Illustrator／Photoshopクリエイター能力認定試験				
担当教員	山崎澄子						講師の実務 経験	15年 以上	デザイン
授業概要	IllustratorとPhotoshopの機能を調べて使いこなせるようにします。認定試験にむけて様々な模擬問題を解いていきます。								
授業方法	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験の模擬問題。Illustrator／Photoshop応用的な使い方の提示								
授業目標	知識・創意・観点	自分で操作方法や手順を考えて問題を解く						◎	
	技能・成果	提示されたサンプルと同じものを作成する						○	
	意欲・自主性・姿勢	自分で問題を解き進める。グループワークに積極的に関わる						○	
	目的意識・共感性	グラフィックアプリケーションの特性を理解する						◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	評価方法								
	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験を受験		15	10	—	10	35		
	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験のいずれかに合格		15	10	—	10	35		
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	10	30		
	合計(点)		30	20	20	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:64点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。								
テキスト・教材	『Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集』、『Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集』								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1回	グダフィックデザイン基礎Aの復習・PDFについて								
2回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
3回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
4回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集								
5回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集								
6回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
7回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
8回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集								
9回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集								
10回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
11回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
12回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集								
13回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集								
14回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
15回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
16回	Illustratorpクリエイター能力認定試験模擬問題集								
備考									
時間外での学修	授業中に終わらなかった問題は時間外に解いて手順を理解しておいて下さい。								
講師の実務経験と授業の関係	グラフィックやエディトリアルデザインの現場で必要とされる基本スキルや実践的な考え方を現役のプロから学びます。								
受講生へのメッセージ	グラフィックデザイン基礎Aで学習した内容の応用です。操作は難しくなりますが、楽しい作業でもあります。グラフィックアプリケーションのさまざまな機能を発見して楽しんでください。								

授業科目名	エディトリアルDTP		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	－	CD・VD3・VA3	2・3・4年次	2(32)
必修・選択	CD・VD3選択必修/VA3選択	その他履修条件	－					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応	－			
担当教員	山崎澄子						講師の実務経験	20年以上 デザイン
授業概要	書籍・雑誌などのページもののDTPを学びます。 InDesignの操作方法を習得します。							
授業方法	はじめにInDesignの基本的な操作を復習します。 海外旅行のパンフレットと旅程表のデザインを考え、レイアウトデザインして仕上げます。							
授業目標	知識・創意・観点	インデザインを使ったページもののデザインと作成						◎
	技能・成果	InDesignの操作						○
	意欲・自主性・姿勢	自発的な企画アイデア出し、デザイン案作成。スケジューリング						◎
	目的意識・共感性	ページものの制作工程						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物		20	10	－	10	40	
	途中の提出物チェック		－	－	10	－	10	
	自発的なアイデア出し		10	－	20	－	30	
	スケジューリング		20	－	－	－	20	
	合計(点)		50	10	30	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材								
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1、2回	InDesign基本操作 スタイルを設定する							
3、4回	InDesign 表組み							
5回	ページもののワークフロー 台割 スケジューリング							
6～10回	表紙デザイン・本文レイアウト							
11回～15回	デザインチェック							
16回	まとめ・提出							
備考								
時間外での学修	ページ物の制作は、時間外に進めるのが主となります。授業時間にはチェックと次の作業の確認をします。							
講師の実務経験と授業の関係	エディトリアルデザインの現場で必要とされる基本スキルや、ワークフローなどの具体的知識を現役のプロから学びます。							
受講生へのメッセージ	ページものを作ります。ページものを制作する基本的な知識と、InDesignの操作を学びます。							

授業科目名	アート研究		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	－	全科共通	2・3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	－					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木1	資格対応	美術検定4級			
担当教員	松本直樹						講師の実務 経験	15年 以上 アーティスト
授業概要	毎回、各時代の名作とされる美術作品を取り上げ、その主題や歴史的背景、技法、コンセプトなどの基本的な鑑賞ポイントを確認していきます。講義で扱う作品は美術検定4級の出題範囲に基づいており、あわせて美術検定4級の取得を目指します。							
授業方法	講義中心の授業です。授業内では試験対策として問題を解いき、これに応える形で授業を進行していきます。また授業最終回では「美術検定4級」試験を受験します。							
授業目標	知識・創意・観点	作品を通し観察眼を鍛え、アート全般に対する批評力を身につける						○
	技能・成果	－						△
	意欲・自主性・姿勢	参考資料のリサーチなど積極的におこなう						◎
	目的意識・共感性	レポートや課題に取り組み、それぞれの作品に対する理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		美術検定4級取得	20	－	－	20	40
			受講態度(出席等を含む)	－	－	40	20	60
			合計(点)	20	－	40	40	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』、その他必要により配布							
その他参考書	『この絵、誰の絵? 100の名作で西洋・日本美術入門』、『はじめて学ぶ美術の歴史 一問一答 美術検定4級練習問題』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション／「美術」について／技法Ⅰ(造形の種類やその製造法)							
2回	技法Ⅱ(造形の種類やその製造法)／西洋美術Ⅰ							
3回	西洋美術Ⅲ							
4回	西洋美術Ⅳ							
5回	現代美術							
6回	日本美術							
7回	アート研究まとめ							
8回	美術検定試験							
備考								
時間外での学修	参考資料なども使用し、試験に向けて各自自学を進めてください。							
受講生へのメッセージ	美術作品の読み解き方を学び、観察眼を鍛えることは「アートを鑑賞する」という枠をこえ、自分自身の制作を進める上でも重要な能力となるでしょう。							

授業科目名	コンセプチュアルアーツ		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	－	VA3・VD3・CD	3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	－					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	－			
担当教員	松本直樹						講師の実務 経験	15年 以上 アーティスト
授業概要	「コンセプチュアルアート」とは、1960年代のアートにおける世界的な動向を指す名称です。日本では「概念芸術」や「観念芸術」と訳されることもあります。 アート作品は、視覚的に捉えられるものだけにとどまりません。本授業では「コンセプチュアルアート」を起点として、アート作品と呼ばれるものがいかに形作られ、その表現がどのように決定され、またどのように受容されてきたのかを、「コンセプト」「概念」「観念」、そして「知覚」というキーワードをもとに探っていきます。							
授業方法	講義中心の授業です。「コンセプチュアルアート」は60年代の美術動向の名称ですが、その年代に限らず、幅広く紹介していきます。レポートによる課題などがあります。							
授業目標	知識・創意・観点	作品を通し観察眼を鍛え、アート全般に対する批評力を身につける						○
	技能・成果	－						△
	意欲・自主性・姿勢	参考資料のリサーチなど積極的をおこなう						◎
	目的意識・共感性	概念操作や知覚の操作など、視覚だけにとどまらない作品の表現を知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		レポートやその他提出物	20	－	20	30	70
			受講態度(出席等を含む)	－	－	30	－	30
	合計(点)		20	－	50	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書	末永 照和、早見 堯 他『増補新装 カラー版 20世紀の美術』、暮沢 剛巳(編)『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション／「概念」・「知覚」について							
2回	「観る」とは何かⅠ							
3回	「観る」とは何かⅡ							
4回	見えないものの世界							
5回	「空間」と「時間」、「平面」と「均衡」							
6回	あまりにも「具体的」なコンセプト							
7回	メタ技術							
8回	コンセプチュアルアートまとめ							
備考								
時間外での学修	授業において紹介した作家、作品、その他キーワードをあらためてリサーチし、思考や見識を深めてください。							
受講生へのメッセージ	受講生のみさんの興味も聞きながら、授業を進行していきます。							

授業科目名	映像理論B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	－	全科共通	2・3年次	2(32)
必修・選択	CD・VD選択必修／VA・OA選択	その他履修条件	「ムービーメイキング」、「写真表現」を履修する場合は必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月4	資格対応	－			
担当教員	吉田章一						講師の実務経験	10年 映像ディレクター以上
授業概要	映像クリエイターが制作現場で必要となる基礎理論の修得を目標に、映像の様々な表現方法が何故必要とされてきたのか、それをどのように使って自分の表現とするのか、映像クリエイターとして現場で必要となる基礎理論を、映画史概要と映像制作の流れから始めて映像表現のための基礎知識や基本的な手法を学びます。							
授業方法	映像制作に必要な理論を年代別に具体例を鑑賞しつつ講義を進めます。翌週の授業の冒頭で理解度のテストを行います。中間で実際に映像制作に必要な課題のレポートを提出します。							
授業目標	知識・創意・観点	映像制作の理論と映像史を学び、映像制作の課題レポートを制作します						◎
	技能・成果	映像制作の実際の技術、企画、準備、撮影、演出、照明、音声など具体例とともに学びます						◎
	意欲・自主性・姿勢	毎週理解度の小テストを行います						◎
	目的意識・共感性	映像表現の理論を学び映像を評価できる判断力を付けます。						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物(レポート)		10	10	10	10	40	
	その他提出物(小テスト)		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		－	－	10	10	20	
	合計(点)		20	20	30	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 小テストの取り組み方、課題の映像作品鑑賞姿勢、授業外での鑑賞することなども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	講師作成の教材をPDFでアップロードし、受講期間中は見直すことも可能です。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	映像と動画の概要 映画の誕生 映画のカメラと映写機 著作権・肖像権							
2回	映像史概要 モンタージュ理論とトーキーの出現 スクリーンの大型化とビデオの出現							
3回	映像制作の流れ・企画(プランニング)テーマの設定 映像手法の選択 実写とアニメーションやCG シナリオと絵コンテ							
4回	撮影 レンズの特⼒ 画面サイズ カメラの高さとアングル カメラ・ワーク ロケハン							
5回	照明1 ライト・ポジション 照明の役割 RGBとYMCK 色彩表現～照度と色彩							
6回	照明2 照明機材 3灯照明の基本と応用							
7回	素材制作 2DCGと3DCG 画像合成 アニメーション 音素材と選曲							
8回	音声 音声の物理 スタジオ録音 ロケ現場での録音 MA(マルチレコーディング)							
9回	編集1 編集の役割 イマジナリーライン							
10回	編集2 編集の技法 音によるカッティング							
11回	絵コンテまたはレポート課題 出題							
12回	特撮の歴史と技法 特撮とは							
13回	アニメーションの歴史							
14回	日本アニメの歴史							
15回	モンタージュ理論の実際 実際に映画をモンタージュ理論から分析							
16回	まとめと関連知識【絵コンテまたはレポート課題 提出】							
備考	初回授業開講前に、受講者事前アンケートを実施します。							
時間外での学修	授業中に取上げた映像作品を授業外で鑑賞すること。講師作成資料を復習すること。							
講師の実務経験と授業の関係	経験豊富な映像ディレクターから、映像制作に不可欠な基礎的知識を学びます。							
受講生へのメッセージ	映像は100年以上をかけて発展してきたビジュアルと言葉と音声の総合芸術です。今までの鑑賞する側から制作する立場に視点を移して学んでいきましょう。							

授業科目名	美術学習論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	CD・VD・VA	1年次	1(16)
必修・選択	条件付き選択必修	その他履修条件	「美術学習論実習」を履修するためには必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月2	資格対応	—			
担当教員	松本小百合・松本直樹						講師の実務 経験	20年 以上 イラストレーター、 グラフィックデザイ ナー
授業概要	美術学習(もっと広くいえば「美育」となりますが)とは、与えられた素材を変化させ、克服しようとする一次体験を通じ、自発性や主体性を学び得る貴重な場です。こうした学び・育みの重要性を知り、またその方法を、担当講師・ゲスト講師のワークショップ実例などを通して学ぶのが美術学習論です。授業の中では、既存のワークショップ実例を体験も含めて知るだけではなく、皆さん自身がワークショップを設計してみます。							
授業方法	講義として、「美術学習(美育)」の意義や、ゲスト講師のワークショップ実例を通し「ねらい」や「組み立て方」を学びます。さらにワークショップ自体を体験する演習なども行います。							
授業目標	知識・創意・観点	「美術学習(美育)」意義を考え、ワークショップ毎の特徴を掴む分析力・洞察力、さらに企画力をつける						◎
	技能・成果	ワークショップ企画の組み立て方や、方法、手順、目標の設定など、企画を具体的に考える構想力を養う						○
	意欲・自主性・姿勢	様々な事例に興味を示し、その特徴を自ら発見していく能動的な姿勢を養う						◎
	目的意識・共感性	「美術学習(美育)」の意義を知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	ワークシート		10	5	15	15	45	
	その他提出物		20	5	—	10	25	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	—	20	
	合計(点)		30	10	35	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布、また演習での教材も必要に応じ配布予定(ただし、一般的に手に入るものであれば、事前に用意するようお知らせします)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション／美術学習・美育について／「ながのこども美術学校」について							
2回	[事例1]「ながのこども美術学校」での取り組み							
3回	[事例2]ゲスト講師(予定)							
4回	[事例3]ゲスト講師(予定)							
5回	[事例4]ゲスト講師(予定)							
6回	[演習]オリジナルのワークショップを考える							
7回	[授業総括演習]ワークショップ・美術講座を考えてみる1							
8回	[授業総括演習]ワークショップ・美術講座を考えてみる2／まとめ							
備考	ゲスト都合により内容が前後する可能性があります。							
時間外での学修	事前に学習として「美育」などのキーワードをもとに調べるなどしてください。また、様々なワークショップ事例もリサーチしてください。ポイントは、こういった「ねらい」で、どのような「方法」で行うかです。							
講師の実務経験と授業の関係	アーティスト・イラストレーターやグラフィックデザイナーの持っている造形ワークショップなど企画・運営のノウハウを講義を通じて学ぶ。							
受講生へのメッセージ	近年では、いわゆる「学び」の場だけではなく、企業などが主催するイベントにおいてもワークショップが盛んに行われています。「美育」という言葉が指す社会的意義と、具体的なワークショップ事例を知っているだけでも、皆さんにとって大きな力となるはずです。							

授業科目名	キャリアデザインA			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	CD・VD・VA	1年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・1	資格対応	日本語検定3級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となつて構想(＝デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインAは自身のキャリアについて考え、自己探求を目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感性や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的にに関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す						◎
	目的意識・共感性	正しい日本語を理解し、日本語検定3級認定を目指す。授業内での指示や連絡を正確に理解する						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点			知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)
	評価方法							
	提出物			10	—	5	5	20
	資格試験			20	—	—	—	20
	グループワーク			10	—	15	5	30
	受講態度(出席等を含む)			10	—	20	—	30
	合計(点)			50	—	40	10	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 日本語検定の受験、キャリアステップの実施、第21回の自己評価提出および、2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	キャリア心理学ライフデザインワークブック・日本語検定公式練習問題集3級・日本語検定受験料3,800円・社会人基礎力 職業適正診断「キャリアステップ」1,600円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【積極的傾聴と効果的質問】グループワークを通じて積極的傾聴と効果的質問をする方法を学ぶ。[主体性・傾聴力]							
第2回-第5回	【自己理解】「キャリア心理学ライフデザイン・ワークブック」などを用いた”自己理解”のためのワークショップや講義。							
第6回	【キャリアアンカー】自分自身の価値観を知り、自分の軸を言語化する。[主体性・計画力・発信力]							
第7回	【パーソナリティと職業興味】RIASECモデルから自分の興味関心を探索する [主体性・働きかけ力・発信力・柔軟性]							
第8回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。							
第9回	【レジリエンスと計画された偶発性】自己探求から自身の現状を受け止め、これからの学びの目的を明確にする。〔課題発見力・計画力・発信力・傾聴力・柔軟性〕							
第10回-第14回	【日本語検定対策①②③④⑤】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。							
第15回 11月6日(金)	日本語検定3級受験日							
第16回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第17回	【業界研究】自分の「強み」について考え、自分に合う働き方を探す							
第18回	【就職準備セミナー】就職活動について知り、準備をする。							
第19回	【社会人基礎力・職業適正診断「キャリアステップ」】社会人基礎力と職業適性をキャリアステップにより診断し、自己理解を深める。							
第20回	【キャリアインタビュー】職業理解を目的として会社を訪問し、自身の学びが仕事の現場でどのようにつながっているかを感じる。							
第21回	【ふりかえり】キャリアデザインAをふりかえり、自身の変化に気付く。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 【キャリアインタビュー】は会社訪問や会社説明会を予定しています。会場までの交通費は自己負担です。 対面での授業を基本としていますが、オンラインで実施する場合があります。							
時間外での学修	日本語検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	自分自身のキャリアをデザインするには自己を探究し、自己理解を深めることが第一歩です。自己を理解し、自分自身を人に伝えられる力をつけましょう。 キャリアデザインAの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	キャリアデザインB			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	CD・VD・VA	2年次	2(32)
必修・選択	必修		その他履修条件		－			
開講期	通年		代表曜日・時限		月・2	資格対応	ビジネス能力検定3級	
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	－
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(＝デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインBはキャリアデザインAに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに人間力を養うことを目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感力や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を磨く 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能・成果	－					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		提出物	10	－	5	5	20
			資格試験	20	－	－	－	20
			グループワーク	10	－	15	5	30
			受講態度(出席等を含む)	10	－	20	－	30
	合計(点)		50	－	40	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 ビジネス能力検定の受験、第17回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 ※キャリアデザインAにて日本語検定を受験していない学生は、上記成績評価の要件に11月6日(金)日本語検定の受験も含まれます。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・ビジネス能力検定3級受験料3,800円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【自己理解①】キャリアデザインBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。自身の人生や仕事をしていく上での目指す姿や目標を考える。[主体性]							
第2回～第5回	【ビジネス能力検定対策①②③④】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。[課題発見力・規律性]							
第6回 6月8日(月)	ビジネス能力検定3級受験日							
第7回	【TEAM BUILDING①準備】自身の経験を他者にプレゼンするための振り返りと準備を行う。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第8回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第9回	【自己理解②】ジョブカードの作成を通し、自分の強みや弱み、やりたいことを明確にする。[主体性・計画力]							
第10回～第12回	【グループワーク】グループでのディスカッションしながら学ぶ。							
第13回	【社会課題への取り組み】社会課題を自分ごととして捉え、課題解決に向けてワークショップを行う。[主体性・課題発見力・実行力・計画力・発信力・状況把握力]							
第14回	【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。[規律性]							
第15回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第16回	【社会人ワーキングセミナー・働くときの基礎知識】社会に出るにあたり、必要なルールや心得を学ぶ。[規律性・状況把握力]							
第17回	【ふりかえり】キャリアデザインBをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 【キャリアインタビュー】は会社訪問や会社説明会を予定しています。会場までの交通費は自己負担です。 対面での授業を基本としていますが、オンラインで実施することもあります。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	卒業後の自分自身を意識し、激変の時代でも道を切り拓いていける力を身につけ、自身の特徴を社会で活かせるように準備をしていきましょう。 キャリアデザインBの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	コピーライティングA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	－	全科共通	2年次	2(32)
必修・選択	VD・CD必修／VA選択	その他履修条件	ゼミ期集中講座					
開講期	集中講座	代表曜日・時間	火 3・4 木 3・4	資格対応	－			
担当教員	長峯亘・小林駿						講師の実務経験	○ コピーライターは
授業概要	言葉をただ「書く」だけで伝わることはほとんどありません。言葉は、書く人の身体を通じて発せられ、響き、伝わるものです。本授業では、「書くこと」と「身体を通して伝えること」の関係性を探求し、実感することを目的とします。そのきっかけとして、私たちは広告文案＝キャッチコピーの制作に取り組みます。 広告は、単に商品やサービスを紹介するだけでなく、人の心を動かし、時には文化や社会を変えてしまう力を持っています。優れた広告表現には、情報を的確に伝える「論理性」と、感覚に訴えかける「情緒性」が共存しています。 この授業では、「なぜこの言葉が人の心を動かすのか?」を考え、実際に手を動かし、身体を通じて書くことで、言葉の本質に迫ります。 また、本プロジェクトではすでに用意された写真や動画といった素材を活用するため、以下の力も養います。 素材の組み合わせと解釈の工夫：与えられた要素をどのように組み合わせるか 構成力の向上：限られた素材の中で、最も効果的な伝え方を考える 物語を紡ぎ出す力：写真や映像が持つストーリーを発見し、表現する 既存の要素を創造的に再構築する力：条件が決まった中で、最大限の創造力を発揮する さらに、制作したキャッチコピーやコンテンツをSNSで実際に発信し、反応を検証することで、「書くことの責任」や「言葉の届き方」をリアルに体験することも							
授業方法	本授業では、「書くこと」と「身体を通して伝えること」の関係を探求し、キャッチコピーを中心に広告表現を学ぶことを目的とします。講義と演習を組み合わせ、言葉の持つ力を実践的に体験しながら学びます。 授業の流れ（予定） 前半（1～4回目）：広告表現の基礎と発想法を学ぶ 座学とワークショップを通じて、言葉のリズムや身体性を体感。グループワークを行い、「言葉を生み出すプロセス」を経験する 後半（5～8回目）：実践制作と発信・検証 Instagramを活用し、山ノ内町の魅力を伝えるコンテンツを企画・制作。SNSの文脈で言葉がどのように機能するかを検証し、ブラッシュアップする 【課題テーマ】 「山ノ内町の魅力を発信し、集客につなげるためのアイデアの発想およびキャッチコピー、コンテンツの企画」 Instagramを活用し、ターゲットに届くコピーとビジュアルを企画・制作する。 【提出する成果物】 Instagram投稿用コンテンツ（フィード / ストーリーズ / リール） キャッチコピーの企画・制作（投稿テキスト / 画像テキスト） グループワークを通じて、コピーライター・ディレクター・デザイナーとしての役割を担いながら、実際の広告コンテンツを制作。チームで進行する中で、言葉の運び方や発信の工夫を試行錯誤しながら、より伝わる表現を探索していく。							
授業目標	知識・創意・観点	情報を的確に伝え、人の心を動かす表現の根本を探る						◎
	技能・成果	情報収集力、整理・分析力を培う						○
	意欲・自主性・姿勢	グループ単位での活動に率先して参画し、連携する						○
	目的意識・共感性	人を惹きつけ、伝わる文章の知識と理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感	合計（点）		
	評価方法							
	制作物①[プレゼンテーション]	20	5	－	20	45		
	制作物②[成果物]	20	5	－	20	45		
	受講態度(出席等を含む)	－	－	10	－	10		
	合計（点）	30	30	30	10	100（点）		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 適時小論文など非広告領域における文章表現の課題を提示する場合があります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回目	授業オリエンテーション／広告表現の基礎と発想法							
3～7回目	アイデア発想法／企画書制作／身体表現／プレゼンテーションなど							
8～16回目	グループでの成果物制作を進行させ、指定した納品日までに必ず完成させます。							
備考	成果物は掲出し、学生や講師による寸評会を実施します。							
時間外での学習	プロジェクト型学習は、個人またはチームごとに授業外にも行うことを想定しています。 授業外に、グループでの打ち合わせや制作などで、週に5時間程度の学習を要します。							
講師の実務経験と授業の関	コピーライターとしての講師の実務経験から、実践的な演習課題を出し、それを通じて「使える」コピーライティングを学びます。							
受講生へのメッセージ	言葉は、ただ並べれば伝わるものではありません。あなたがどれだけ思いを込めても、相手は勘違いをするかもしれない。誤解されたり、聞き流されたり、まったく伝わらないこともある。だからこそ、私たちは 何度も言葉を選び、書き直し、工夫しながら、伝えようとするのです。そして、言葉は「身体」を通して伝わります。書き手の声のトーン、言葉のリズム、選ばれた単語、そしてその背景には、その人自身の体験や感覚がある。 この授業では、「書くこと」と「身体を通して伝えること」の関係を探ります。キャッチコピーというシンプルな表現を通じて、「言葉を生み出す身体感覚」や「読まれたときの響き方」を実践的に学びます。また、作った言葉をSNSで実際に発信することで、書くことが「独り言」ではなく、「誰かに届く行為」であることを実感してください。 書くことは、あなたの思考と身体を使う創造的な行為です。それがどれほど面白く、奥深いものか、一緒に探っていきましょう。							

授業科目名	映像表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	CD・VD・VA	2・3・4年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応	—			
担当教員	土橋利章 ほか						講師の実務経験	10年 映像ディレクターほか
授業概要	昨今、映像を用いた表現の幅の広がりは、とどまるところを知りません。「CG」「アニメーション」「プロジェクションマッピング」にはじまり「Youtube」や「TikTok」に至るまで、映像の表現力は、複雑多岐に姿を変え、我々の世界に影響しています。本授業では、映像業界の各方面で活躍するプロフェッショナルをゲスト講師としておむかえし、実際のクライアントワークや機材などに触れる機会を設けます。履修される皆さんは、映像表現の奥深さと幅広さについて理解を深め、映像クリエイターとしての仕事の「面白さ」を発見してもらいたいと思います。							
授業方法	講義中心の授業です。毎回ゲスト講師をお招きして、制作物とそれに関わるお話しや、使用している機材、あるいはソフトなどを紹介していただきます。 場合によって演習課題やレポートなどもあります。開講日時は不定期（5～10月までの木曜が中心）です。							
授業目標	知識・創意・観点	映像の表現の幅を知り、見識を広げ、自身の制作の動機づけとする						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	演習への取り組みやレポート提出、ゲスト講師への質問などを通し積極的に授業へ参加する						◎
	目的意識・共感性	どのような技法や機材があるか学ぶ						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法		評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）
	レポートや演習などの提出物			20	—	10	10	40
	受講態度(出席等を含む)			—	—	40	20	60
	合計（点）			20	—	40	30	100（点）
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	導入授業							
2回～7回	随時、演習やゲスト講師を招いての講義							
8回	授業ふりかえり							
備考	開講時期は不定期です。確定した開講日時に関しては、1週間前までを目安にお知らせをします。履修生は、教務からの連絡を注視してください。							
時間外での学修	レポートや演習課題のほか、授業において取り上げた話題や情報について、各自、考えを深めてください。							
講師の実務経験と授業の関係	映像ディレクターやクリエイターなど実務歴のある講師から、様々な映像表現とその仕組みや効果を学びます。							
受講生へのメッセージ	毎回、映像業界におけるプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	マンガ概論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	CD・VD・VA	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件		—				
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限		木・3	資格対応	—		

担当教員	荒井瑞貴					講師の実務 経験	10年 以上	漫画家、イラストレーター
------	------	--	--	--	--	-------------	-----------	--------------

授業概要	マンガの手法を演習し、その成果物をディスカッションします。また自身が感じる魅力的なマンガを観察、洞察、プレゼンテーションすることで、より造詣を深めていきます。							
授業方法	講義と演習が中心の授業になります。プレゼンテーションなどもおこないます。また他者の制作物を鑑賞し自分の感じたことを伝えることもおこないます。							
授業目標	知識・創意・観点	マンガを通して、絵の表現力、物語力、総合力を学ぶ						◎
	技能・成果	—						○
	意欲・自主性・姿勢	発表時の積極性や協調性、提出課題期限を守る						◎
	目的意識・共感性	講義・演習を通して表現力、物語力、総合力を身につける						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						

観点別評価	評価の観点		知識・創意・ 観点	技能・成果	意欲・自主性・ 姿勢	目的意識・共感 性	合計(点)
	評価方法						
	提出物		20	—	20	20	60
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	10	40
評価の特記事項	合計(点)		30	—	40	30	100(点)
	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。						

テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～2回	マンガの特性と表現形式の講座やマンガ考察
3～8回	マンガの形式の演習を交え、考え話し合う コマや吹き出しの有効な使い方 1コママンガ及びストーリーマンガの表現方法など
備考	ゲスト講師登壇(予定)

時間外での学修	時間内で満足のいく制作が難しい場合は、各自時間外で進めること。課題は必ず完成させて提出してください。
講師の実務経験と授業の関係	講師の実務経験からの講義や、実践的な演習課題を出し、それを通じてマンガを描くだけでなく、考察し構成する力を身につけます。
受講生へのメッセージ	演習も多くありますが、うまく描くというより、コツや見え方、手法を実技で学ぶ時間です。 第三者に伝わる表現方法の手段として、マンガを考えます。

授業科目名	キャラクター概論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	CD・VD・VA	1・2・3年次 ※VDは1年次のみ	1(16)
必修・選択	選択		その他履修条件		—			
開講期	7月～10月(ゼミ期)		代表曜日・時限		土1・2	資格対応	—	
担当教員	下田ひかり						講師の実務 経験	5年 以上 アート
授業概要	世の中にある「キャラクター」について、分類や役割を調査し、自分達で造形することで、より実践的に理解を深める。グループワークとして行う事で、社会で必要とされるコミュニケーションを通したクリエイティブを学ぶ。							
授業方法	長野の企業や自治体のキャラクターを作る授業です。1,2回目は事前に配布した資料の読み合わせ、3回目からは1班5人程度に分かれたグループワークです。ものづくりは1人で完結できるものではありません。必ず「私以外の誰か」が存在して成り立ちます。グループワークを通して、協力して一つのものを企画する勉強をします。							
授業目標	知識・創意・観点	目的からキャラクターデザインを作り上げ同時に商品パッケージ、プロモーション方法を考える アイデアをイラストや図などを使って分かりやすく他人に伝えるプレゼン方法を考える						◎
	技能・成果	「上手く描く」事は必要はないが、成果物を「見る人にちゃんと伝わるもの」に仕上げる						○
	意欲・自主性・姿勢	グループワークなので、一人一人がグループに積極的にに関わり、役割分担をし、意欲的に取り組む						◎
	目的意識・共感性	自分達で能動的に調査する事で、対象への知識と理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	課題(レポート等)		10	—	10	10	30	
	制作物(グループ単位)		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	10	10	30	
	合計(点)		30	10	30	30	100(点)	
評価の特記事項	出席率(関心・意欲)を重視しています。欠席1日まで可。それ以上は不可。やむを得ない場合は要相談。初回(1, 2回)の出席は必須。 欠席した場合は、レポート提出。自主性を重視します。ただ授業に参加するだけではなく、話し合いへの積極的な参加、アイデア出しが求められます。 これらの態度も評価に含まれます。							
テキスト・教材	教材などはこちらでは用意しません。「自分達で調べる」事が必要になるので、パソコンやスマホ、資料など授業中に調べるためのものを自分達で用意すること。その他、ゆるキャラ制作に必要と自分達で判断したもの(描画に必要な紙や筆記用具、パソコン、デバイスなど)を準備							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	キャラクターについての概要、役割、活用について、グループごとの調査と発表。							
3～10回	グループごとにオリジナルのゆるキャラ作成。途中と最後にプレゼン発表。							
備考								
時間外での学修	時間内で満足のいく制作が難しいと判断した場合は、各自時間外で集まって検討を重ね、最終的に成果物として完成させ発表すること。							
講師の実務経験と授業の関係	オリジナルキャラクターのプロダクト化などもおこなう講師から、具体的なキャラクターの設計方法を、演習などを通して学びます。							
受講生へのメッセージ	1年次にはまだ馴染みのないグループワーク形式の授業です。普段何気なく接しているキャラクターについて、クリエイティブの学校だからこそ、その意義や効果的な使われ方について実践的に学べる授業としました。自分達で考え形にする事を最重要視しています。各々がクリエイティブに関わる一人だと自覚し、一つのものを作り上げるために積極的に動けるように考えて行動して下さい。							

授業科目名	インターンシップA			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	通年	代表曜日・時限	※	資格対応	—			

※ 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。

担当教員	依田由美子・小林駿					講師の実務 経験	—
------	-----------	--	--	--	--	-------------	---

授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。							
------	--	--	--	--	--	--	--	--

授業方法	事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。 インターン先の選択肢としては、主に「学校連携先企業」「任意の企業および市町村等が主催するインターンシップ」の2種があります。いずれかにおいて計5日間の日数を目安に取り組みます。 【履修上の注意】 学校連携企業へのインターンシップ生決定に際しては、希望調査の内容のみならず、日頃からの全般的修学姿勢なども範囲に入れて選抜を行います。							
------	---	--	--	--	--	--	--	--

授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎
	目的意識・共感性	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						

観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）
	評価方法						
	その他提出物		10	－	10	10	30
	他者との協同		10	－	10	10	30
	受講態度(出席等を含む)		15	－	15	10	40
	合計（点）		35	－	35	30	100（点）

評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。							
---------	---	--	--	--	--	--	--	--

テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布							
---------	--------------------------	--	--	--	--	--	--	--

その他参考書								
--------	--	--	--	--	--	--	--	--

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップAの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップAの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。
6月下旬	【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査等を基に学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。
第3回	【事前準備】インターンシップ先の企業別に、または個人ごとオリエンテーションを行います。
主に夏期授業期間	【インターンシップ実施期間】5日程度のインターンシップの実施 ※
第4回	【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。
備考	授業の実施時期・曜日または時間は、個人の進捗や、インターン先の企業の都合などにより変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。 ※ 当授業は通年で開講しますが、基本的に「夏期授業期間」の期間内で実施を終えてください。それ以外の期間での実施も可能ですがその場合は、他の履修授業の日程を最優先に計画してください。

時間外での学修	企業リサーチを各自おこなう。 インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。							
---------	--	--	--	--	--	--	--	--

受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深めましょう。							
------------	--	--	--	--	--	--	--	--

授業科目名	インターンシップB			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	通年	代表曜日・時限	※	資格対応	—			

※ 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。

担当教員	依田由美子・小林駿			講師の実務 経験	—
------	-----------	--	--	-------------	---

授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。					
授業方法	事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。 インターン先の選択肢としては、主に「学校連携先企業」「任意の企業および市町村等が主催するインターンシップ」の2種があります。いずれかにおいて計5日間の日数を目安に取り組みます。 【履修上の注意】 学校連携企業へのインターンシップ生決定に際しては、希望調査の内容のみならず、日頃からの全般的修学姿勢なども範疇に入れて選抜を行います。					
授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ				◎
	技能・成果	—				△
	意欲・自主性・姿勢	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す				◎
	目的意識・共感性	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる				○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。				

観点別評価	評価の方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)
	提出物		10	—	10	10	30
	他者との協同		10	—	10	10	30
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40
	合計(点)		35	—	35	30	100(点)

評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。
---------	--

テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップBの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップBの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。
6月下旬	【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査をもとに学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。
第3回	【事前準備】インターンシップ先企業別または、個人ごとオリエンテーションを行います。
主に夏期授業期間	【主なインターンシップ実施期間】5日程度のインターンシップの実施 ※
第4回	【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。
備考	授業の実施時期・曜日または時間は、個人の進捗やインターン先の企業の都合などにより変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。 ※ 当授業は通年で開講しますが、基本的に「夏期授業期間」の期間内で実施を終えてください。それ以外の期間での実施も可能ですがその場合は、他の履修授業の日程を最優先に計画してください。
時間外での学修	企業リサーチを各自おこなう。 インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を見つけましょう。

授業科目名	インターンシップC		科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	○	VA3	3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—				
開講期	通年	代表曜日・時限	※1	資格対応	—		

※ 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。

担当教員	依田由美子・小林駿	講師の実務 経験	—
------	-----------	-------------	---

授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。		
授業方法	事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。 インターン先の選択肢としては、主に「学校連携先企業」「任意の企業および市町村等が主催するインターンシップ」の2種があります。いずれかにおいて計5日間の日数を目安に取り組みます。 【履修上の注意】 学校連携企業へのインターンシップ生決定に際しては、希望調査の内容のみならず、日頃からの全般的修学姿勢なども範疇に入れて選抜を行います。		
授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ	◎
	技能・成果	—	△
	意欲・自主性・姿勢	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す	◎
	目的意識・共感性	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる	○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価	評価の方法	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）
	提出物	10	—	10	10	30
	他者との協同	10	—	10	10	30
	受講態度(出席等を含む)	15	—	15	10	40
	合計（点）	35	—	35	30	100（点）
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。					

テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップCの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップCの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。
6月下旬	【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査をもとに学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。
第3回	【事前準備】インターンシップ先企業別または、個人ごとオリエンテーションを行います。
主に夏期授業期間	【主なインターンシップ実施期間】5日程度のインターンシップの実施 ※
第4回	【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。
備考	授業の実施時期・曜日または時間は、個人の進捗またはインターン先の企業の都合などにより変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。 ※ 当授業は通年で開講しますが、基本的に「夏期授業期間」の期間内で実施を終えてください。それ以外の期間での実施も可能ですがその場合は、他の履修授業の日程を最優先に計画してください。

時間外での学修	企業リサーチを各自おこなう。 インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を見つけましょう。

授業科目名	WEB表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			講義・演習	WEBメディア ライン	—	全科共通	1・2・3・4年次 ※VAは2・3年次	1(16)	
必修・選択	CD・VD選択必修／VA・OA選択	その他履修条件	「WEB制作1・2」を履修する場合は履修必須						
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応					
担当教員	森澤 木綿子・本藤 佳代子 ほか						講師の実務 経験	5年 以上	WEB企画 ほか
授業概要	WEBサイトの制作においてもっとも重要なのは、目的を達成する＝ターゲットに届くサイトを構築することです。そのためには、サイトの利用体験（UX）や操作性や視覚性（UI）を意識したデザインはもちろんのこと、写真や、映像、イラスト、文字情報など適切なコンテンツを組み合わせた総合的な企画力＝“WEB表現力”が必要となります。そうした能力を身につけるために、本授業ではまず現在のWEBを取り巻く状況を把握します。また、第一線で活躍するクリエイターの生の声を聞き、その上で、それぞれがWEBサイト制作におけるターゲットを設定。サイトの構造とページの構成（それぞれ具体的にどんな表現をするのか言葉として記載）を考え、（あとから見て実際に制作することができる）“サイトの設計図”を作成します。								
授業方法	前半は講義メインの授業。後半は製作したいWEBサイトの企画書を作成しプレゼンを行う。								
授業目標	知識・創意・観点	届けたいターゲットに刺さる企画とデザインを考える。						◎	
	技能・成果	説得力のあるプレゼン資料の作成と発表。サイトの構築を目的としない。						◎	
	意欲・自主性・姿勢	どのような表現を使えばターゲットに届くのかを考える。						◎	
	目的意識・共感性	WEBの成り立ちと現状、今後必要とされる表現方法を考える。						◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）		
	評価方法								
	課題への取り組み		10	15	—	10	35		
	成果物		10	15	—	10	35		
	受講姿勢		—	—	20	10	30		
	合計（点）		30	20	20	30	100（点）		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:64点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。								
テキスト・教材									
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1回	(内容)僕たちが考える“現在のWEB”って何？			(1)さまざまなWEBサイトの役割と目的を考える					
2回	(内容)企画せよ！ WEBサイト作成に向けたターゲットの設定			(1)誰に何を届けたいのか？(2)企画を考える					
3回	(内容)企画を考える・サイトの設計図の作成			(1)素材をリストアップ (2)サイトの設計図の作成					
4回	(内容)ゲスト講師による講義			(1)WEB表現の現場を学ぶ					
5回	(内容)企画を考える・サイトの設計図の作成			(1)サイトの設計図の作成					
6回	(内容)企画を考える・サイトの設計図の作成			(1)サイトの設計図の作成					
7回	(内容)企画を考える・サイトの設計図の作成			(1)サイトの設計図の作成					
8回	(内容)サイトの設計図の発表			(1)他者に伝わる発表方法を学ぶ					
備考	上記の計画は目安です。皆さんの学習進捗や、ゲスト講師のご予定などの都合により変動する可能性があります。								
時間外での学修	サイトの設計図で使用する素材の準備や作成などは、授業外で進めましょう。								
講師の実務経験と授業の関係	さまざまなメディアで多彩なコンテンツを企画・制作してきた経験豊富な講師が授業を担当します。 外部講師による単発講座も含んでいます。								
受講生へのメッセージ	WEBはますます社会にとって必要不可欠な存在となり、かつ細分化が進んでいくと思います。今後はどのような業種でも関わることになるでしょう。美専生らしく、美しく使いやすいWEBサイトを企画できる能力を身につける一歩目の授業としてください。								

授業科目名	アートコマース・リサーチ		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	専門	—	VA3	3年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	ゼミ期(7月～10月)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	松本直樹						講師の実務 経験	—
授業概要	本授業では、アートの商取引における様々な形態やその価値評価方法、さらにはプロモーションツールの制作や実際に販売可能な作品の制作など、アートビジネスに必要な実践的なスキルを養います。 また古典的なギャラリーやフェア、オークションなどを学び、さらには現代的なオンラインマーケットやSNSを活用した販売方法、現在のトレンドなど、多様なマーケット／コマースのあり方を探ります。 これらの学びを通じて、自分にあったアートコマースのかたちを見つけていきます。							
授業方法	本授業は、「講義」「リサーチ」「制作演習」の3つの授業方法を採用します。特に「リサーチ」と「制作実技」が中心となります。以下の授業方法で、アートビジネスについて実践的な知識を身につけます。 [講義]：古典的なギャラリーやフェア、オークションなどのアートビジネス事例を学びます。 [リサーチ]：周囲のクリエイターへの調査、ゲスト講師からの事例の聞き取りなどを通じ、アートビジネスにおけるトレンドや方法をリサーチします。 [制作演習]：プロモーションツール用SNS作成や作品制作など、実際の制作に取り組みます。							
授業目標	知識・創意・観点	自分にあったアートコマースのかたちを見つける						◎
	技能・成果	課題の意図を理解し、主体的に進め制作物を完成させる						◎
	意欲・自主性・姿勢	主体的にリサーチを進め、授業内に発表する						◎
	目的意識・共感性	—						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	レポート・制作物		30	20	20	—	70	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	—	30	
	合計（点）		40	30	30	—	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション:「従来のアートマーケットについて」・「リサーチ方法について」							
2～4回	リサーチ(必要によりゲスト講師)							
5～7回	制作演習／随時リサーチ							
8回	振り返り・講評							
備考								
時間外での学修	予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。授業外においてもリサーチ・制作演習を行い計画的に取り組むことが求められます。							
講師の実務経験と授業の関係	美術家の講師による従来のアートマーケットの学びます。さらに講師は現在のマーケットやコマースのあり方をリサーチする上の伴走者となります。							
受講生へのメッセージ	制作活動を継続する力は、制作物の流通方法によって左右されます。卒業後の活動に役立つ「実践的な知」を身につけましょう！							

授業科目名	ファインアートA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	ファインアートライン	－	VA・CD	1年次	3(90)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	「コミックスアートA」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2/ 水1・2/金3・4	資格対応	－			
担当教員	松本直樹・中山徳幸						講師の実務 経験	15年 以上 アーティスト
授業概要	基礎的な実技を通して造形基礎力を養い、単なる現象や技術を超えて「表現」へと展開するプロセスを経験します。 「作品」を制作することの意味を、実際に手を動かしながら体得します。 また本年度は、希望者を対象に社会学連携活動「抽象画制作プロジェクト(仮称)」を実施します。 これに伴い、「抽象」や「素材」に関する講義および演習も併せて行います。							
授業方法	ドローイングや彩色など、主に平面実技を中心とした実技、および個人制作、制作物に対する講評							
授業目標	知識・創意・観点	自身の行為を通し、起こった現象に柔軟に反応できる力を身につける						◎
	技能・成果	全ての基礎力である観察眼を身につけ、各課題に対し作品として仕上げる力を身につける						○
	意欲・自主性・姿勢	柔軟な発想や考えで制作に取り組む力を身につける						○
	目的意識・共感性	造形の基礎知識を理解し、自身の経験をノートへ記述し、確かなものにする						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・ 観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
	評価方法		制作物	30	20	10	10	70
	スケッチブックやノート等の提出物		－	－	－	10	10	
	受講態度(出席等を含む)		10	－	10	－	20	
	合計(点)		40	20	20	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 自身のプロセスをたどる手がかりとして、アイデアなどを自由にスケッチブックやノートに書き留める制作ノートを作成し、ファインアートAでの学習のまとめとして提出します。							
テキスト・教材	ノートやメモ、スケッチブック(大きさ自由)、デッサン用具(画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ばうきなど)、色彩用具(トナールカラー、絵の具や筆)、それぞれ各自で用意。なお画用紙はサポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション・自己紹介／導入「制作とは」「描写とは」							
2～8回	基礎課題Ⅰ(模写等制作小演習)							
9回～11回	基礎課題Ⅱ(模写等制作小演習)・「抽象画制作プロジェクト(仮称)」スタート							
12～15回	導入「作品とは」／個人制作Ⅰ／講評							
16～22回	個人制作Ⅱ／講評							
23～30回	個人制作Ⅲ／鑑賞会・講評							
備考	授業内容は皆さんの学びの進度や技量によって変更します。また、実技に使用する道具は自身で揃えてください。平面作品の制作を念頭に進めます。立体などの制作希望がある場合、事前に相談してください。							
時間外での学修	日頃から、多くの作品に触れるように心がけてください。作品に触れる機会は、美術館やギャラリーで開催される展覧会だけにとどまりません、例えば作品カタログ、インターネットなどの媒体を通して鑑賞できます。 また基礎的な訓練(クロッキーやドローイング等)などは、自宅や通学中の電車内であっても出来ます。必ず毎日行ってください。							
受講生へのメッセージ	講師はあくまで学生の「助言役」です。講評以外であっても、積極的に制作上の疑問や課題・問題などを自ら発見し、聞きに来てください。							

授業科目名	ファインアートB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	ファインア ートライン	—	VA・CD	2年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	「コミックスアートB」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2/金3・4	資格対応	—			
担当教員	松本直樹・中山徳幸						講師の実務 経験	15年 以上 アーティスト
授業概要	各自が個人制作実技の授業であることを理解し、自身の制作にとって何が課題であるかを発見し、その解決方法を「手を動かしながら」考えます。 そのための素材や技法、メディア（表現媒体）などは自由とします。ただし、必ず作品として完成させること。 講師はその過程において助言を行います。 また本年度は、希望者を中心に社会学連携活動「抽象画制作プロジェクト（仮称）」を実施します。 これに伴い、「抽象」や「素材」に関する講義および演習も併せて行います。							
授業方法	基礎実技をベースとした個人制作実技、および制作物に対する講評。 個人制作は、コンセプトを考えながら進めます。また制作プロセスも仮説を立てながら進めます。							
授業目標	知識・創意・観点	制作物を「作品」として完成させるためのあらゆる力を身につける						◎
	技能・成果	制作における素材や技法を、作品のコンセプトやイメージから選択することのできる力を身につける						○
	意欲・自主性・姿勢	自身の作品を客観的に見れる力、さらに柔軟な発想や考えで制作に取り組む力を身につける						○
	目的意識・共感性	幅広いアート表現への知識・理解と、素材・技法などの自身の経験則を身につける						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	制作物		30	20	10	10	70	
	ノート等の提出物		—	—	—	10	10	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	10	—	20	
	合計（点）		40	20	20	20	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 自身のプロセスをたどる手がかりとして、アイデアなどを自由にスケッチブックやノートに書き留める制作ノートを制作し、ファインアートBでの学習のまとめとして提出します。							
テキスト・教材	各々制作に必要なもの。テキストは必要により配布。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション・自己紹介／導入「制作とは」「描写とは」							
2～4回	基礎課題Ⅰ（模写等制作小演習）・「抽象画制作プロジェクト（仮称）」スタート							
5～11回	基礎課題Ⅱ（模写等制作小演習）							
12～15回	個人制作Ⅰ／講評							
16～22回	個人制作Ⅰからの課題整理→個人制作Ⅱ／講評							
23～30回	個人制作Ⅲ／鑑賞会・講評							
備考	授業内容は皆さんの学びの進度や技量によって変更します。また、実技に使用する道具は自身で揃えてください。							
時間外での学修	日頃から、多くの作品に触れるように心がけてください。作品に触れる機会は、美術館やギャラリーで開催される展覧会だけにとどまりません、例えば作品カタログ、インターネットなどの媒体を通して鑑賞できます。 また基礎的な訓練（クロッキーやドローイング等）などは、自宅や通学中の電車内であっても出来ます。必ず毎日行ってください。							
受講生へのメッセージ	講師はあくまで学生の「助言役」です。講評以外であっても、積極的に制作上の疑問や課題・問題などを自ら発見し、聞きに来てください。							

授業科目名	ファインアートC		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	ファインア ートライン	—	VA	2年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	「コミックスアートC」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2/金3・4	資格対応	—			
担当教員	松本直樹・中山徳幸						講師の実務 経験	15年 以上 アーティスト
授業概要	各自が個人制作実技の授業であることを理解し、自身の制作にとって何が課題であるかを発見し、その解決方法を「手を動かしながら」考えます。 そのための素材や技法、メディア（表現媒体）などは自由とします。ただし、必ず作品として完成させること。 講師はその過程において助言を行います。 また本年度は、希望者を中心に社会学連携活動「抽象画制作プロジェクト（仮称）」を実施します。 これに伴い、「抽象」や「素材」に関する講義および演習も併せて行います。							
授業方法	基礎実技をベースとした個人制作実技、および制作物に対する講評。 個人制作は、コンセプトを考えながら進めます。また制作プロセスも仮説を立てながら進めます。							
授業目標	知識・創意・観点	制作物を「作品」として完成させるためのあらゆる力を身につける						◎
	技能・成果	制作における素材や技法を、作品のコンセプトやイメージから選択することのできる力を身につける						○
	意欲・自主性・姿勢	自身の作品を客観的に見れる力、さらに柔軟な発想や考えで制作に取り組む力を身につける						○
	目的意識・共感性	幅広いアート表現への知識・理解と、素材・技法などの自身の経験則を身につける						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	制作物		30	20	10	10	70	
	ノート等の提出物		—	—	—	10	10	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	10	—	20	
	合計（点）		40	20	20	20	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 自身のプロセスをたどる手がかりとして、アイデアなどを自由にスケッチブックやノートに書き留める制作ノートを制作し、ファインアートCでの学習のまとめとして提出します。							
テキスト・教材	各々制作に必要なもの。テキストは必要により配布。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション・自己紹介／導入「制作とは」「描写とは」							
2～4回	基礎課題Ⅰ（模写等制作小演習）・「抽象画制作プロジェクト（仮称）」スタート							
5～11回	基礎課題Ⅱ（模写等制作小演習）							
12～15回	個人制作Ⅰ／講評							
16～22回	個人制作Ⅰからの課題整理→個人制作Ⅱ／講評							
23～30回	個人制作Ⅲ／鑑賞会・講評							
備考	授業内容は皆さんの学びの進度や技量によって変更します。また、実技に使用する道具は自身で揃えてください。							
時間外での学修	日頃から、多くの作品に触れるように心がけてください。作品に触れる機会は、美術館やギャラリーで開催される展覧会だけにとどまりません、例えば作品カタログ、インターネットなどの媒体を通して鑑賞できます。 また基礎的な訓練（クロッキーやドローイング等）などは、自宅や通学中の電車内であっても出来ます。必ず毎日行ってください。							
受講生へのメッセージ	講師はあくまで学生の「助言役」です。講評以外であっても、積極的に制作上の疑問や課題・問題などを自ら発見し、聞きに来てください。							

授業科目名	コミックスアートA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	アニメキャラクター・マンガ	—	VA	1年次	3(90)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	「ファインアートA」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2 / 金3・	資格対応	—			
担当教員	ながはり朱実・dolly・荒井瑞貴・神奈						講師の実務経験	15年 以上 イラストレーター・デザイナー
授業概要	キャラクター表現は、キャラ設定を含む、世界観に基づくビジュアルが表現の基礎で、マンガ表現は、ストーリーに基づく、コマ等による物語展開が表現の基礎です。この考えのもと、キャラクター表現やマンガ表現の土台となる基礎的表現力を養います。作例を模写したり、リサーチしながら習作したり、自身の作品設定の視点や表現の幅に繋げましょう。 また講師の提示する作例や講師自身の作品を通じ、多様な表現方法や作品制作へのアプローチ方法がある事を知り、自身の制作の方向性を模索しましょう。							
授業方法	自身がこれから取り組みたい作画のリサーチや基礎的なPCによる描画などを、それぞれの段階に合わせ個別実技指導をします。外部での発表を見据え、授業では制作物に対する講評を受けます。そしてその講評を元に制作物などの完成度を上げていきます。授業中盤から授業内容は講評ベースとなります。必ず授業外でも制作を進めてください。							
授業目標	知識・創意・観点	表現すべきものの探究し、それを第三者に伝える表現方法を模索する						◎
	技能・成果	作品を成立させるための基本的な表現力(描写力や物語展開力)を養う						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品を仕上げる力を身につけ、作品の発表おこない、自ら自身の課題を発見する						◎
	目的意識・共感性	自分が目標とする作例などをリサーチし、どのような意図や技法で描かれているか理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		15	15	—	—	30	
	制作物		10	10	10	10	40	
	制作プロセス		—	—	15	15	30	
	受講態度(出席等を含む)		25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション							
2回	自己紹介							
3～6回	各講師による講義・演習							
7～9回	課題①							
10～13回	課題②							
14～23回	課題③							
備考	ゲスト講師を予定しています。							
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
講師の実務経験と授業の関係	マンガコラムなどを手がけて来たイラストレーターと、グラフィックデザイナーによるビジュアルコミュニケーションツールとしての「キャラクター」を実技を通し、学びます。							
受講生へのメッセージ	形を捉える力を付け、作品を仕上げる経験を多く積むことが重要です。 基礎をしっかり学びましょう。							

授業科目名	コミックスアートB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	アニメキャラクターライン・マンガラ	－	VA	2年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	「ファインアートB」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2 / 金3・4	資格対応	－			
担当教員	ながはり朱実・dolly・荒井瑞貴・神奈						講師の実務 経験	15年 以上 イラストレーター・デザイナー
授業概要	キャラクター表現は、キャラ設定を含む、世界観に基づくビジュアルが表現の基礎で、マンガ表現は、ストーリーに基づく、コマ等による物語展開が表現の基礎です。この考えのもと、キャラクター表現やマンガ表現の土台となる基礎的表現力を養います。作例を模写したり、リサーチしながら習作したり、自身の作品設定の視点や表現の幅に繋げましょう。 また講師の提示する作例や講師自身の作品を通じ、多様な表現方法や作品制作へのアプローチ方法がある事を知り、自身の制作の方向性を模索しましょう。							
授業方法	自身がこれから取り組みたい作画のリサーチや基礎的なPCによる描画などを、それぞれの段階に合わせ個別実技指導をします。外部での発表を見据え、授業では制作物に対する講評を受けます。そしてその講評を元に制作物などの完成度を上げていきます。授業中盤から授業内容は講評ベースとなります。必ず授業外でも制作を進めてください。							
授業目標	知識・創意・観点	表現すべきものの探究し、それを第三者に伝える表現方法を模索する						◎
	技能・成果	作品を成立させるための基本的な表現力(描写力や物語展開力)を養う						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品を仕上げる力を身につけ、作品の発表おこない、自ら自身の課題を発見する						◎
	目的意識・共感性	自分が目標とする作例などをリサーチし、どのような意図や技法で描かれているか理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・ 観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
	制作物		15	15	－	－	30	
	制作プロセス		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		－	－	15	15	30	
	合計(点)		25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション 1年次まとめ							
2回	自己紹介							
3～30回	・課題探求(1年次取り組みの振り返り) ・作例リサーチ、模写課題 ・各講師による講義・演習 ・制作課題3点							
備考	ゲスト講師を予定しています。							
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
講師の実務経験と授業の関係	マンガコラムなどを手がけて来たイラストレーターと、グラフィックデザイナーによるビジュアルコミュニケーションツールとしての「キャラクター」を実技を通して学びます。							
受講生へのメッセージ	積み上げた技術、経験を再度確認しましょう。 基礎を学ぶとともに、新しい自分の技術を習得する時間にしましょう。							

授業科目名	コミックスアートC		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	アニメキャラクター・マンガライン・マンガラ	－	VA3	3年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	「ファインアートC」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2 / 金3・4	資格対応	－			
担当教員	ながはり朱実・dolly・荒井瑞貴・神奈						講師の実務 経験	15年 以上 イラストレーター・デザイナー
授業概要	キャラクター表現やマンガ表現の土台となる基礎的表現力を養います。作例をリサーチしながら習作し、自身の表現の幅に繋げましょう。背景やストーリー性など思い描いた世界観やコマ等を用いたストーリーなど、それぞれの興味に基づく設定や物語を構築します。多様な表現方法や作品へのアプローチ方法がある事を、講師の作例を交えて理解し、自分の表現方法を模索しましょう。							
授業方法	構図の取り方、下絵の作り方、リサーチや基礎的なPCによる描画などを、それぞれの段階に合わせ実技指導します。外部での発表を見据え、授業では制作物に対する講評を受けます。そしてその講評を元に制作物などの完成度を上げていきます。授業中盤から授業内容は講評ベースとなります。必ず授業外でも制作を進めてください。							
授業目標	知識・創意・観点	「自分だからできる」という唯一の世界観（ストーリー性）を発見し、第三者に伝わる表現力を身につける						◎
	技能・成果	作品を成立させるための表現力(描写力)をより探求する						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品を仕上げる力を身につけ、作品の発表おこない、自身の課題に取り組む						◎
	目的意識・共感性	自分が目標とする作例などをリサーチし、どのような意図や技法で描かれているか理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の方法		評価の観点	知識・創意・ 観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計（点）
	制作物			15	15	－	－	30
	制作プロセス			10	10	10	10	40
	受講態度(出席等を含む)			－	－	15	15	30
	合計（点）			25	25	25	25	100（点）
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション 2年次まとめ							
2回	自己紹介							
3～30回	・課題探求(2年次取り組みの振り返り) ・作例リサーチ、模写課題 ・各講師による講義・演習 ・制作課題3点							
備考	ゲスト講師を予定しています。							
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
講師の実務経験と授業の関係	マンガコラムなどを手がけて来たイラストレーターと、グラフィックデザイナーによるビジュアルコミュニケーションツールとしての「キャラクター」を実技を通し学びます。							
受講生へのメッセージ	積み上げた技術、経験を再度確認しましょう。 基礎を学ぶとともに、新しい自分の技術を習得する時間にしましょう。							

授業科目名	ライン別ゼミA・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			実技	総合	○	全科共通	1・2・3年次	4(120)	
必修・選択	必修(C・Dは選択)	その他履修条件	1…全科の1年次以降 / 1…全科の2年次						
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火・水・金	資格対応	—				
担当教員	寺島克己・大橋佳世子・中村武志・ながはり朱実・本藤佳代子・松本直樹 ほか						講師の実務経験	20年以上	グラフィックデザイナー・映像クリエイター・イラストレーター・美術家ほか
授業概要	みなさんにとって、本校の基礎履修期に配当された多くの科目が「学びの視野を広げるもの」であるのに対し、ライン別ゼミは「各専門性をより深く学ぶもの」として設けられています。したがって、学びの集大成である「総合制作」の前に位置づけられています。 このような設定意図のもと、制作物の完成を前提とした実技演習を中心に、実践的なワークを含めて授業を行います。各ゼミの授業スケジュールは、ラインごとの専門性に依じて異なります。 また、全学年が同一のゼミに所属し、ひとつの教室で授業を行う点も特徴の一つです。 ビジュアルデザイン科は、デザイン、イラストレーション、映像(2年次のみ)、WEBメディア(2年次のみ)、ビジュアルアート科は、アニメキャラクター、ファインアート、マンガの各ラインに分かれます。*com.デザイン総合学科の学生は、授業時間が変則的になることがあります。 なお、夏期授業期間においては、ラインごとに課題が出題されます。								
授業方法	実技ベースの授業で、各ラインの特性に合わせた授業がそれぞれ展開します。 主にデザインラインはグループワークが中心となり、その他の授業は、個人制作がメインとなっていきます。								
授業目標	知識・創意・観点	制作を通し、各ラインの専門性に適した表現を実践的に学ぶ						◎	
	技能・成果	個人実技はもちろん、グループワークにおいてもそれぞれの専門性特有の技能を身につける						◎	
	意欲・自主性・姿勢	制作物を完成させ、発表ないしはクライアントへの納品まで行い、制作の先まで経験する						◎	
	目的意識・共感性	各専門性に必要な知識を深く学び、プロフェッショナルのレベルを知る						◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	制作物		10	10	10	10	40		
	制作プロセス		5	5	5	5	20		
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	10	40		
	合計(点)		25	25	25	25	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。								
テキスト・教材	必要により配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
7月1日～5日	ライン別ゼミ導入プログラム								
7月6日～25日	ゼミごとの課題やオリエンテーション								
7月26日～10月30日	制作等の実技								
10月31日	ラインゼミごとのまとめ								
備考	ゼミ期:7月1日～10月31日(夏期授業期間:7月1日～8月25日)								
時間外での学修	制作ベースの授業は、授業外での取り組みを念頭においています。授業外でも制作をしてください。加えて、デザインラインなどのクライアントの要請に基づくプロジェクト型学習においては、チームごとの打ち合わせなどもあります。								
講師の実務経験と授業の関係	合同のオリエンテーション後、履修学生はゼミに分かれ、それぞれの専門分野プロの講師から出題される制作課題を通し、それぞれの分野への理解を深め技術を高めます。								
受講生へのメッセージ	各専門性について深く学ぶ機会です。しっかりと制作に励み、経験を積み、そして成長の糧としてください。								

授業科目名	自由実践A・B・C・D・E・F・G・H		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	－	全科共通	1・2・3・4年次	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	A・B…全科の1年次／C・D…全科の2年次／E・F…VA3・VD3・CDの3年次／ G・H…VA3・3年次およびCDの4年次に配当					
開講期	随時	代表曜日・時限	－	資格対応	－			
担当教員	松本直樹・小林健太郎						講師の実務経験	5 グラフィックデザイナー
授業概要	連携企業等から提示される社会課題やコンペ等に対し、実践的にクリエイティブワークで応える授業です。 このため、厳密な授業スケジュールは設定せず、学生が自らエントリーしたプロジェクトごとに進みます。 授業の流れとしては、所定のフォーマットを用いて各プロジェクト課題を選択し、エントリーを行います。課題確定後、それぞれの課題に取り組みます。 連携企業等の課題の場合は、 ①当該課題のオリエンテーション→②制作（中間経過報告・相談）→③企業等へのプレゼンテーション→④制作物の納品 コンペの場合は、 ①当該コンペへの応募→②制作（中間経過報告・相談）→③結果報告 必要に応じて、ゲストのプロジェクト担当講師を招聘します。 なお、進捗確認に対して応答がない場合は、授業放棄とみなすことがあります。							
授業方法	実践的な制作中心の授業となります。基本的なアプリケーション等の指導はありません。 他の授業で学習したことや、各自が必要に応じ調べたことを実践の中で応用し、学びを進めます。							
授業目標	知識・創意・観点	他授業での学びや、自身で経験やリサーチを応用できる						◎
	技能・成果	求められているものに対し、制作物を通し、的確に回答することができる						◎
	意欲・自主性・姿勢	主体的に制作を進めることができる(不明なことがあれば、担当教員に問い合わせることができる)						◎
	目的意識・共感性	－						
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の方法		評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)
	制作物			25	25	30	－	80
	制作物過程			－	－	20	－	20
	合計(点)			25	25	50	－	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 制作過程・制作物を通した評価となります。制作過程とは、オリエンテーションへとプレゼンテーションへの参加とその取り組み姿勢(質問力)などを指します。							
テキスト・教材	必要により配布。なお、実践教材にあたる社会学連携活動の情報は、Google Classroom「地域連携研究センター」(クラスコード:6k5k3jy)でも見ることができます。ご活用ください。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション(課題説明など)							
2～7回	制作							
8回	プレゼンテーション／結果報告							
備考								
時間外での学修	プレゼンテーションを受けたあとは、各自による制作(個人・グループ)となります。課題提出期限までに間に合うよう完成に向けて制作を続けます。							
講師の実務経験と授業の関係	デザイン業務における打ち合わせから、納品までの流れを、実践的に学ぶ。							
受講生へのメッセージ	制作が中心の授業で、その成果は実際に社会で活用される可能性もあります。やりがいを感じることができる授業です。 また進捗確認に対して応答がない場合は、授業の放棄と見做す場合があります。							

授業科目名	美術学習論実習A・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	全科共通	1年次以降	3(90)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…全科の1年次以降 / B…全科の2年次以降 / C…VD3・CDの3年次以降 / D…CDの4年次に配当					
開講期	通年	代表曜日・時限	土3・4	資格対応	—			
担当教員	小林勝彦・矢作恵・松本小百合・ながはり朱実						講師の実務 経験	美術家 20年 以上 イラストレーター グラフィックデザイ ナー
授業概要	長野美術専門学校の付帯事業である「ながのこども美術学校」のスタッフとして受講します。 学童期（6～12歳）の子どもたちの純粋な表現に触れる場において、自然やさまざまな素材・ものに触れながら、「デザイン」「アート」「美術トレーニング」による課題を共に考えることで、感情や情緒を育み、創造的で個性的な心の働きを豊かにし、それを絵や形で表現する手助けを行うとともに、道徳的な意識や価値観を養います。 また、学生主体で取り組む講座日を設け、その体験を通して、社会とのつながりを持つワークショップの場においても、参加者のための課題づくりや運営に活かしていきます。							
授業方法	講座前後30分を設営準備、後片付けの時間とする計3時間の授業となり、講座中は子ども達のサポートをします。設営準備では当日の内容確認ミーティングを、後片付けでは当日の反省会等を毎回行い、講師とスタッフ間の連帯を大切にすることにより、スタッフとしての講座運営を円滑にします。							
授業目標	知識・創意・観点	講座が円滑に進められるよう、サポートに必要な思考力・判断力、社会性、コミュニケーション力を身につける						◎
	技能・成果	課題を理解し、子どもたちにわかりやすく説明するとともに、表現を引き出す指導力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	子どもと同じ課題を制作し、講評を行うことや、講師・スタッフとの反省会を通して自ら課題を見つけ、次へとつなげる力を養う						◎
	目的意識・共感性	基本的な美術用具の使い方や、本校で学んだ美術知識に加え、学童期の社会生活に必要な基礎的知識、および送迎時における保護者との関わり方を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	制作サポートのプロセス		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		10	20	20	10	60	
	合計（点）		20	30	30	20	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ばうきなどのデッサン用具、色彩用具。テキストは必要により配布。カリキュラムにより各自用意できるものは各自で用意します。 ※専用エプロンの購入が必須になります。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
5月～3月	各回の内容については、「ながのこども美術学校」各講座カリキュラム表を参照すること； https://drive.google.com/file/d/1RM03K15ISGzrDQJQHSt1X-OyfjnsWBg/view?usp=sharing 子どもたちが表現しやすい講座運営を心がけるとともに、講師の講座計画を十分に理解し、自身の講座設計や運営に活かします。							
備考	各開講日の日程や詳細な内容などは前述のスケジュール、および別途配布する「ながのこども美術学校 カリキュラム」に依ります。							
時間外での学修	本校での授業からそれぞれの技術・知識をよく学んでおきましょう。課題によってデジタルカメラやパソコンなどを使います。							
講師の実務経験と授業の関係	経験豊富な講師陣とともに開講することも造形教室における実習を通し、造形教育における一次体験の重要性を知り、ひいてはワークショップなどのイベントを企画できる力を養います。							
受講生へのメッセージ	子ども達は、私たちの事をよく見ています。社会性のある言動や行動、コミュニケーションを心がけましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	－	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	－					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2 金1・2	資格対応	－			
担当教員	山崎澄子・小林健太郎					講師の実 務経験	20年 以上	グラフィックデ ザイナー
授業概要	・Illustratorの使い方を習得する ・印刷物を制作するためのノウハウを習得する ・必須課題／Macミニテスト、トレース							
授業方法	Macの基本的な使い方、Illustratorの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。 動画を見ながら各自オペレーションを学ぶ。必須課題のほか、ミニ課題を提出。							
授業目標	知識・創意・観点	操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる						◎
	技能・成果	Mac基礎、Illustrator操作						○
	意欲・自主性・姿勢	動画を見ながらミニ課題を作成。または自分で考えて進められる						◎
	目的意識・共感性	グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物 2点		30	24	－	6	60	
	その他提出物		－		10	－	10	
	出席率		－	－	30	－	30	
	合計(点)		30	24	40	6	100(点)	
評価の特記事 項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。 出席率60%以上、制作物3点の提出が単位認定の基準となります。							
テキスト・教 材	動画教材 必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	Mac基礎							
3・4回	Illustrator							
5・6回	Illustrator							
7・8回	Illustrator							
備考								
時間外での学 修	課題制作が授業ないで終わらない場合は、授業時間外に進めること。							
講師の実務経 験と授業の関 係	2名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。							
受講生への メッセージ	グラフィックソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うことになります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	－	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	－					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2 金1・2	資格対応	－			
担当教員	山崎澄子・小林健太郎					講師の実 務経験	20年 以上	グラフィックデ ザイナー
授業概要	・Photoshop・InDesignの使い方を習得する ・印刷物を制作するためのノウハウを習得する ・必須課題／レタッチ（トマト）、名刺							
授業方法	Macの基本的な使い方、Photoshop,InDesignの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。 動画を見ながら各自オペレーションを学ぶ。必須課題のほか、ミニ課題を提出。							
授業目標	知識・創意・観点	操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる						◎
	技能・成果	Photoshop、InDesignの操作						○
	意欲・自主性・姿勢	動画を見ながらミニ課題を作成。または自分で調べて進められる						◎
	目的意識・共感性	グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の方法		知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計（点）	
	制作物2点		30	24	－	6	60	
	その他提出物		－		10	－	10	
	出席率		－	－	30	－	30	
	合計（点）		30	24	40	6	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。 出席率60%以上、制作物2点の提出が単位認定の基準となります。							
テキスト・教材	動画教材 必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	Photoshop							
3・4回	Photoshop							
5・6回	名刺作成・InDesign							
7・8回	InDesign・名刺講評会							
備考								
時間外での学修	課題制作が授業内で終わらない場合は、授業時間外に進めること。							
講師の実務経験と授業の関係	2名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。							
受講生へのメッセージ	グラフィックソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うことになります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	－	全科共通	1年次	2(60)
必修・選択	必修	その他履修条件	－					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月3・4 木1・2	資格対応	－			
担当教員	寺島克己・山崎澄子						講師の実 務経験	20年 以上 グラフィックデ ザイナー
授業概要	文字組みの概念と誌面レイアウトの基本を学びます。							
授業方法	ビジネス文書のレイアウトからチラシ作成まで段階的にレイアウトを通じて文字組みの反復していきます。またDTPスキルも学びます。 本年度は小グループに分け、理解度をチーム内で高め進めていきます。							
授業目標	知識・創意・観点	読みやすい文字組み						◎
	技能・成果	DTP操作スキル						◎
	意欲・自主性・姿勢	目的に沿ったレイアウト						◎
	目的意識・共感性	文字組みの						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の方法		評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)
	制作物			30	20	－	20	70
	受講態度(出席等を含む)			10	－	20	－	30
	合計(点)			40	20	20	20	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 文字組み、DTPスキルの理解度							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	オリエン、グラフィックデザインにおける文字組みの重要性							
3・4回	文字組みの概念							
5・6回								
7・8回	小テスト							
9・10回	レイアウト基礎/実践 情報の整理							
11・12回								
13・14回								
15・16回	まとめ							
備考								
時間外での学修	コンセプトの考案や制作物の制作を進めてください。授業内では主に、アイデアに対するアドバイスや、クオリティーのチェック、その他制作に対する助言をします。							
講師の実務経験と授業の関係	2名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。							
受講生へのメッセージ	授業内では文字組みの小テストを実施します。基本となる文字組の知識をしっかりと身につけ誌面レイアウトに反映しましょう。							

授業科目名	ビジュアル表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	前半(4/20～4/28)は集中授業として開講 後半(5/9～6/27)は通常授業として開講					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	[前半]火～金1・2 [後半]火4	資格対応	—			
担当教員	相澤徳行						講師の実務 経験	15年 アートディレク 以上 ター
授業概要	視覚造形の基礎を学びながら、個性的な発想・個性的な表現を探っていきます。授業では、紙と筆記用具ベースで実際に手を動かすこと重視し創作していきます。各回の授業のはじめには発想トレーニングをします。							
授業方法	基礎履修期のはじめと終わりの2期に分けて行う集中講座となります。授業内ではテーマごとにテキストを配布し、それに基づき講義と実技演習を行います。キャンパスを出て「取材」をすることもあります。							
授業目標	知識・創意・観点	既成概念に縛られない構想法による自由で柔軟な発想を身につける						◎
	技能・成果	発想を制作物に落とし込む力を身につける						○
	意欲・自主性・姿勢	一次的な造形試行（実際に観る、調べる、実際に手で素材を探るなど）から創造的動機を引き出す力を身につける						◎
	目的意識・共感性	一次的な造形試行の必要性を理解する						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	制作物		40	10	—	—	50	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	40	10	50	
	合計（点）		40	10	40	10	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	授業時に必要なテキストは配布します。 紙、筆記用具、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	ビジュアル表現とは 選挙ポスター風自己紹介カードを作成し自分をモチーフに表現してみる							
2回	色 「春の色」をテーマに素材を探す感性を養う							
3回	形 簡単な紙工作の中で個性的な発想を競い養う							
4回	構成 簡単な図形を使いながら構成力を養う							
5,6回	発想 自由な視点からのスケッチ／ひらがなのある風景写真「固定概念に囚われない発想」と「機能するアイデア」							
7,8回	素材 フロッタージュ(擦りだし)により、さまざまな素材感に触れる							
9,10回	色 「初夏の色」をテーマに素材を探す感性を養う							
11,12回	まとめ 新聞紙を使った共感される創作							
備考								
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
講師の実務経験と授業の関係	アートディレクターより出題される複数の課題を通し、全てのビジュアル表現における基礎的思考を学びます。							
受講生へのメッセージ	造形する上で重要な発想トレーニング、エクササイズです。自由に、そして柔軟に、みんなで楽しく取り組みましょう。							

授業科目名	タイポグラフィ 1		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	－	全科共通	1	1(30)
必修・選択	VD・CD必修／VA選択	その他履修条件	－					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	水3・4	資格対応	レタリング技能検定3級			
担当教員	小林勝彦・小林健太郎						講師の実務 経験	20年 アートディレク 以上 ター
授業概要	レタリングでデザインの造形法の基礎を学びます。日本語書体のレタリングを明朝体とゴシック体で行います。また文字の骨格を素早く描く練習も重ねていきます。後半では英字レタリングまた、技能の強化を図る目的でレタリング技能検定受験にも取り組みます。							
授業方法	手本通りに鉛筆の手描きで時間をかけて成形します。骨格描きは修正が効かないサインペン等を使って短時間で描く練習です。							
授業目標	知識・創意・観点	手本の骨格、ウエイト、エレメントを正しく理解する						◎
	技能・成果	形の観察力、形成力をつける						◎
	意欲・自主性・姿勢	正しく美しい形づくりへの意欲と、完成に向けた粘り強い制作態度を高める						◎
	目的意識・共感性	文字特有の造形法が広くデザイン造形に通じることを認識する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作の質		10	10	10	10	40	
	提出物の充足		－	－	20	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		－	－	15	15	30	
	合計(点)		10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 上記観点には、レタリング技能検定への取り組み状況も含まれています。							
テキスト・教材	「Learn Bisen」WEBサイト、Google Classroom、書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買のPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、水性中細サインペン							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	1.オリエンテーション 2.エレメントから一個の漢字							
2回	1.基準字体 2.明朝漢字							
3回	1.基準字体 2.明朝漢字							
4回	1.基準字体 2.ゴシック漢字							
5回	1.かな(ひらがな・かたかな)							
6回	試験対策講座							
7回	1.英字ロゴタイプ							
8回	1.英字ロゴタイプ 2.まとめ							
備考								
時間外での学修	実技科目は課題など時間外での制作も念頭に授業を進めます。							
講師の実務経験と授業の関係	広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たタイポグラフィについての知見や技術を伝える。							
受講生へのメッセージ	レタリングは広くデザインの基礎を培います。この意義を実技を通し学びましょう。							

授業科目名	レイアウトデザインA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			実技	デザインライ ン	－	VD3・CD・VA3	2 年次	1 (30)	
必修・選択	VD・CD選択必修／ VA選択	その他履修条件	－						
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月1	資格対応	－				
担当教員	小林勝彦						講師の実務経 験	20年 以上	アートディレク ター
授業概要	目的にかなうレイアウトデザインを実践的へと基礎から学びます。								
授業方法	グラフィックデザインソフトやWebデザインソフトを用いて、多様なメディアのレイアウトデザインを実習する。								
授業目標	知識・創意・観点	レイアウトデザインの表現の文脈性についての基礎をつくる							○
	技能・成果	あらゆるメディアでのデザインに基礎となる文脈構築動機を生む							○
	意欲・自主性・姿勢	異なるメディアでの展開により基礎力を強化する							◎
	目的意識・共感性	セオリーやロジックに裏付けられた制力作をつけることを目的とする							◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の方法		知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計（点）		
	制作の質		10	10	10	10	40		
	提出物の充足		－	－	20	10	30		
	受講態度(出席等を含む)		－	－	15	15	30		
	合計（点）		40	30	25	5	100（点）		
評価の特記事 項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。								
テキスト・教 材	パソコン(Mac)、グラフィックデザインソフト(Illustrator・Indesign)・エディター(テキストエディット等)、小説や論考等の書籍								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1～3回	ビジュアル要素の文脈構成(メディアA)								
4～16回	ビジュアル要素の文脈構成(メディアB)								
備考									
時間外での学 修	必要です。								
講師の実務経 験と授業の関 係	広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たレイアウトデザインについての知見や技術を伝える。								
受講生への メッセージ	ビジュアルデザインは文脈の構築です。事務文章などを見ると主に文字により文章を連ねていく順番が文脈となっていますが、広告や編集物のデザインとなると順番づけだけでは効果的な表現にはなりません。ここでも文章はやはり重要な要素で、文字で表されます。そしてそこに絵柄が入ってきますがこれは写真やイラストなどです。								

授業科目名	ムービーメイキングA・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	映像ライン	—	CD・VD・VA	2年次以降	2(60)
必修・選択	CD・VD3選択 VD2・VA選択必修	その他履修条件	A…VD2・VD3・VA2・CDの2年次以降 / B…VD3・VA3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当 また履修には「映像理論B」の履修が必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火 3・4 水 3・4	資格対応	—			
担当教員	中村武志・滝澤弘志・片岡辰介ほか					講師の実務 経験	15年 以上	映像クリエイター、映 像ディレクターほか
授業概要	個々の履修生が考える表現の方向性に拠り「実写」と「アニメーション」の2グループに分かれて、制作・実習を行います。それぞれの主旨は以下の通り [実写]：照明やカメラ等の撮影機材の特性に対して理解を深め、基礎的な操作方法の習得を目指す [アニメーション]：映像とサウンドの関係性など、アニメーション表現の基本原則に理解を深め、またそれに関する実技的な演習に取り組む いずれの場合も「基礎」を着実に身につけることを軸とし、ゼミ期以降の応用的な制作にむけた基盤を形作ります。							
授業方法	制作中心の実技系科目です。「実写」「アニメーション」のグループ毎に講師がつきます。実技的な演習課題を課したり、それへの取り組みに応じて参考 になる作例や技法的な工程を紹介しつつ、個別指導を行います。 加えて、担当講師とのディスカッションを通して、一人ひとりが自身の表現の方向性についてイメージを固めていきます。							
授業目標	知識・創意・観点	広い視野で物事を捉え、構想し制作し完成することができるクリエイターとしての基礎力を身につける						◎
	技能・成果	基本的な構想力、制作工程を整理する力、編集力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	視野を広げ自由な発想で主体的に制作を進める力を養う						◎
	目的意識・共感性	様々な映像の基本的仕組み、必要な最低限の工程を学ぶ						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創 意・観 点	技能・成果	意欲・自主 性・姿 勢	目的意識・共 感 性	合 計（点）	
	制作物		25	20	10	20	75	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	25	—	25	
	合計（点）		25	20	35	20	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC(主な使用アプリ:Photoshop、After Effects、Movieなど)、その他制作に必要なもの。							
その他参考書	テキスト:大河原浩一『Adobe After Effects CC マスターブック』(必要により貸出)							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
事前	「ムービーメイキング」授業オリエンテーション ※履修生は必ず参加							
1回	[実写]と[アニメーション]のグループに分かれディスカッション、それぞれで課題テーマの発表							
2回～15回	実制作 ※学外研修が行われる可能性があります							
16回	まとめ							
備考								
時間外での学修	授業内における制作期間はもちろん、実技系科目は授業外にも制作を行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作を進め、疑問や質問があれば講師に聞けるように準備してください。							
講師の実務経験と授業の関係	映像ディレクターやクリエイターなど実務経験の豊富な講師陣から、映像の実制作課題を通し、制作の工程や精度などを学びます。							
受講生へのメッセージ	映像表現は無限なので、型にとらわれず自由な発想で、挑んでください。							

授業科目名	写真表現A・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			実技	映像ライン	—	CD・VD	2年次以降	2(60)	
必修・選択	CD・VD選択必修	その他履修条件	A…全科の2年次以降 / B…VD3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当 履修には「映像理論B」の履修が必須						
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木 1・2 金 1・2	資格対応	フォトマスター検定3級				
担当教員	金井 真一・大井川 茂兵衛・松本 千尋ほか						講師の実務経 験	15年 以上	フォトグラ ファー
授業概要	デジタルワークとアナログワークの2つの切り口から写真というメディアにおける表現を学びます。 デジタルワーク：デジタルカメラによる撮影やスタジオ機材の使用についての実習、成果発表としての写真集の作成や写真展の開催 アナログワーク：大判カメラを用いたモノクロフィルムの撮影実習、フィルムを使った現像と焼き付け体験 またフォトマスター検定試験（11月予定）過去問題集を参考に3級以上の合格を目指します								
授業方法	デジタルワーク ：講義にはじまり「露出」「スタジオライティング」「RAW現像」等の実習 アナログワーク ：大判カメラを用いた撮影、フィルム現像と印画紙焼き付け作業にかかる実習 またこれらに加え、写真集の制作にあたっては外部講師などを招聘する予定								
授業目標	知識・創意・観点	被写体と向かい合い撮影から制作まで、見る人に伝わる表現						◎	
	技能・成果	露出や色調整、構図						◎	
	意欲・自主性・姿勢	撮影、現像、作品作りへの取り組み						◎	
	目的意識・共感性	基本的な写真原理への理解						◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の方法		評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）
	制作物				10	10	10	10	40
	撮影機材取り扱い				—	15	—	10	25
	制作物完成までのプロセス				10	15	—	—	25
	受講態度(検定対策学習、出席等を含む)				—	—	10	—	10
	合計（点）				20	40	20	20	100（点）
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。								
	配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。								
テキスト・教材	フォトマスター検定事務局『フォト検 過去問題の解答と解説』問題集、検定受験料。 その他、現像用薬品、撮影機材、その他制作費など、授業内の活動により都度購入が必要です。								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1～2回	露出の原理/デジタルカメラの扱い方/撮影実習・講評など								
3回	課題発表								
4～11回	課題に応じた実習/フォト検対策講座								
12～14回	写真展準備								
15回	写真展講評/授業まとめ								
備考	講師の登壇日程については、都度変更となる場合があります。 履修人数により、スケジュールは変動します。またB・C履修生については、それぞれの制作方向性に併せ、別途スケジュールとなる可能性があります。								
時間外での学修	撮影、現像作業、写真集制作等、作業の進捗に併せて時間外での取り組みが必要になる場合があります。								
講師の実務経験と授業の関係	プロのフォトグラファーから、アナログとデジタルカメラの原理、撮影方法など、実技を通して学びます。								
受講生へのメッセージ	映像をやりたい人も、写真の知識は必要だと思います。費用もかかりますが、この授業で経験出来る事を将来への糧にしてください。								

授業科目名	イラストレーションA・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	イラストレー ションライン	—	CD・VD	2年次以降	1(30)
必修・選択	CD・VD選択 VA選択必修	その他履修条件	A…全科の2年次以降 / B…VD3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋佳世子・渋沢恵美						講師の実務経 験	15年以 上 イラストレー ター
授業概要	明確な制作物の設定をすることで、イラスト制作の意義を高め、幅広く考える力をつけ、自分らしい表現方法を確立していきます。 また、制作において使用機材・画材の研究をし、素材感や表現方法についての知識と理解を深めます。							
授業方法	課題の提示／制作／中間プレゼン／ブラッシュアップ／提出・講評							
授業目標	知識・創意・観点	イラストを通して情報を伝える力、表現力を身につける						◎
	技能・成果	ビジュアルコミュニケーションの幅広い用途に用いられる平面的な表現方法を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み意欲及び態度。丁寧な制作						◎
	目的意識・共感性	基本的な画材の特性や使い方を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
	制作物及び提出物		30	20	10	10	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	10	30	
	合計(点)		30	20	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	使用機材・画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	[制作1] オリエンテーション/課題の提示							
2回	[制作1] 中間プレゼン							
3回	[制作1] 講評会				[制作2]課題の提示			
4回	[制作2] 中間プレゼン							
5回	[制作2] 講評会				[制作3]課題の提示			
6回	[制作3] 中間プレゼン							
7回	[制作3] 講評会				[制作4]課題の提示			
8回	[制作4] 中間プレゼン							
9回	[制作4] 講評会・まとめ							
備考								
時間外での学修	授業内における制作期間はもちろん、実技系科目は授業外にも制作を行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作を進め、疑問や質問があれば講師に聞けるように準備してください。							
講師の実務経 験と授業の関 係	イラストレーターによるビジュアルコミュニケーションツールとしての「イラストレーション」を実技を通し学びます。							
受講生へのメッ セージ	社会がイラストレーターに求めているのは、「人に意図したメッセージを伝えることができる力」です。「伝わる」イラストレーションを身につけましょ う！							

授業科目名	描写A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VA	1年次	1(30)
必修・選択	VA必修／CD選択必修	その他履修条件	火曜はアニキャラ・マンガアートAおよびファインアートAと同時限に開講 CD科は「描写入門」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3・4 火1・2	資格対応	—			
担当教員	中山徳幸・松本直樹・小林健太郎						講師の実務経 験	15年 以上 アーティスト
授業概要	あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。 ずは『基本形態』から透視図法や光についてなど基本的観点を身につけます。							
授業方法	デッサンの理論をまとめたテキストを配布し講義を行い、その後、実技実習となります。 各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚以上のデッサンとクロッキーを完成させます。							
授業目標	知識・創意・観点	デッサンの理論からの描写法を身につける						◎
	技能・成果	観察からの描写法を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる）						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	評価方法							
	制作物及び提出物		20	20	10	20	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	20	30	
	合計（点）		20	20	20	40	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 配布した資料を整理し見返す、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、クロッキー帳などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30センチ)を毎回用意すること。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	描くための準備:道具の使い方などを習得する							
2回	基本形態を描く①							
3回	基本形態を描く②							
4・5回	基本形態の応用							
6・7回	基礎描写－手							
8回	基礎描写－人体クロッキー							
備考	人体クロッキーは受講者同士がモデルとなり、描き合います。							
時間外での学修	デッサンの理論をまとめた資料を配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。							

授業科目名	描写B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	－	VA・CD	1年次	1(30)
必修・選択	VA必修／CD選択必修	その他履修条件	火曜はアニキャラ・マンガアートAおよびファインアートAと同時限に開講 CD科は「描写1」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3・4 火1・2	資格対応	－			
担当教員	中山徳幸・松本直樹・小林健太郎						講師の実務経 験	15年 以上 アーティスト
授業概要	あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンやクロッキーは様々な造形表現の基本的な演習です。 「描写A」で学んだことを基に、より複雑なモチーフを描いていきます。							
授業方法	実技が中心となります。各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚以上のデッサンとクロッキーを完成させます。							
授業目標	知識・創意・観点	デッサンの理論からの描写法を身につける						◎
	技能・成果	観察からの描写法を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み態度（一枚、一枚妥協せず完成させる）						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解し応用できる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	制作物及び提出物		20	20	10	20	70	
	受講態度(出席等を含む)		－	－	10	20	30	
	合計（点）		20	20	20	40	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30センチ)を毎回用意すること。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	クロッキー①							
2・3・4回	モチーフを描く①－「自画像」							
5回	クロッキー②							
6・7・8回	モチーフを描く②－「石膏像」							
備考	人体クロッキーは受講者同士がモデルとなり、描き合います。							
時間外での学修	デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。							

授業科目名	描画表現A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	CD・VD3・VA3	2・3年次	2(60)
必修・選択	VD3必修、VA選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	(基) 火 3・4 (ゼ) 火 1・2	資格対応	—			
担当教員	中山徳幸						講師の実務経験	—
授業概要	デッサンを中心とした実技授業です。人体のフォルムや動きにみえる骨と筋肉を理解し描写できることを目指し授業を進行します。さらに、構図や光などにこだわり一枚の画として仕上げることを目標とします。							
授業方法	まず、石膏デッサンによって描写力を養います。さらに、着衣のモデルの観察から、基本的な解剖学、人体の骨と筋肉を養います。さらに着衣のモデルの人体デッサン進めます。作品ごとに講評会を開きます。これにより自身の制作物を客観的にみる訓練をします。 さらにただデッサンとしてではなく、制作を通じて構図や光などといった要素に注目し、一枚の画としての表現にこだわります。							
授業目標	知識・創意・観点	人体の骨格や筋肉図を理解し、プロポーションが取れるようになる、一枚の画として表現にこだわる						◎
	技能・成果	解剖図を理解しながら、人体を観察し描写力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	丁寧な制作姿勢、ねばり強く描き上げられるようになる						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解できるようになる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物及び提出物		30	20	10	10	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	10	30	
	合計(点)		30	20	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要に応じ配布。画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	基礎デッサン／石膏デッサン①							
3・4回	石膏デッサン①							
5～8回	石膏デッサン②							
9～17回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
備考								
時間外での学修								
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。							

授業科目名	描画表現B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	CD・VD3・VA共通	2・3年次	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	金 1・2	資格対応	—			
担当教員	中山徳幸						講師の実務経験	—
授業概要	主に人体をモチーフとしたペインティング表現を制作を通し学びます。 画材は問いませんので、各課題ごとに履修生はアナログか、デジタルかを選択します。アナログ・デジタルともに、デッサン人形を使用し、人体のフォルムや動きにみえる骨と筋肉を理解し描写できることを目指し、授業を進行します。 さらに、構図や光などにこだわり一枚の画として仕上げることを目標とします。							
授業方法	作品ごと講評会を開きます。自身の制作物を客観的にみる訓練します。デジタルの場合は必ず出力して講評に臨みます。 制作を通じて構図や光などといった要素に注目し、一枚の画としての表現にこだわります。							
授業目標	知識・創意・観点	人体の骨格や筋肉図を理解し、プロポーションが取れるようになる、一枚の画として表現にこだわる						◎
	技能・成果	解剖図を理解しながら、人体を観察し描写力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	丁寧な制作姿勢、ねばり強く描き上げられるようになる						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解できるようになる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物及び提出物		30	20	10	10	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	10	30	
	合計(点)		30	20	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要に応じ配布。画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
3・4回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
5～8回	デッサン人形を使用した作品制作							
備考								
時間外での学修								
受講生へのメッセージ	人体をテーマに、アナログ、デジタル問わず表現を模索し一枚の絵画を仕上げる経験をします。							

授業科目名	総合制作 1・2		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	－	全科共通	1・2年次	7(210)
必修・選択	必修(3のみ選択)	その他履修条件	1…全科の1年次以降 / 1…全科の2年次以降に配当 「総合制作2」は、課程修了に必要な必修科目(実技)を全て修得していなければ履修することはできない					
開講期	11月～1月(総合制作期)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	－			
担当教員	寺島克己・大橋佳世子・中村 武志・ながはり朱実・松本直樹・本藤佳代子 ほか						講師の実務 経験	20年 以上 グラフィックデザイナー・ 映像クリエイター・イラスト レーター・芸術家ほか
授業概要	各年次における学びの集大成としての制作に取り組みます。「美専修学ライン」に沿って、各学科に配当されたテクニカルラインごとに出题された課題内容に基づき、アイデアを練りながら企画書を作成します。その後の制作は、この企画書を足がかりとして進めます。 必要に応じて講師へ相談し、制作サポートを要請することで、自身の制作における問題解決の一助とします。 また、制作物は「学内展」での発表を前提として制作を進め、「合同講評会」では制作物についてプレゼンテーションを行います。充実した制作期間となるよう、主体的に取り組んでください。							
授業方法	個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等でキャンパス外での制作が主となる場合は、他所での制作を登校とみなす「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。							
授業目標	知識・創意・観点	各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質への到達経験をする						◎
	技能・成果	各ラインにおける課題の意図を理解し、主体的に取り組む、制作物を完成させる						◎
	意欲・自主性・姿勢	制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう						◎
	目的意識・共感性	－						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物		20	10	10	－	40	
	中間報告会を含むプロセス		10	10	10	－	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	－	30	
	合計(点)		40	30	30	－	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
10月下旬	総合制作期 導入プログラム(企画の立案、企画書作成、制作の開始)							
11月下旬	中間経過報告会							
1月中旬	制作物提出							
1月末	学内展、合同講評会							
備考	詳細なスケジュールについては、10月下旬の導入プログラムの際に通知します。							
時間外での学修	制作ベースの授業です。制作時間が予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。 授業外においても自主的、計画的に制作を行うことが求められます。							
講師の実務経験と授業の関係	合同のオリエンテーション後、履修学生はそれぞれのクラスに分かれ、各専門分野プロの講師から出题される制作課題を通し、それぞれの分野での実践的技術を高めます。							
受講生へのメッセージ	1月下旬の学内展と、合同講評会をもって成果とします。粘り強く諦めずに制作しましょう。							

授業科目名	総合研究A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD3・VA3・CD	3年次	11(330)
必修・選択	VD3・VA3必修／CD選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期) 11月～1月(総合制作期)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	小林駿・小林健太郎・松本直樹 ほか						講師の実務 経験	15年 グラフィックデ ザイナーほか
授業概要	これまでの学びの集大成としての制作に取り組みます。作品、あるいは自身で企画・開発したプロダクトやサービスについて、販売またはプロモーションを目的としたイベントやキャンペーンとして実施してください。 必要に応じて講師に相談し、サポートを要請することで、自身の制作における問題解決の一助とします。また、場合によっては担当講師以外のゲストを招聘することも可能です。 なお、自身の課題探究のため、前半は「ライン別ゼミ」に合流することも可能です。授業内では、3回の経過報告会を設ける予定です。							
授業方法	個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等がある場合は、他所での制作を許可する「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。							
授業目標	知識・創意・観点	各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質へ到達する						◎
	技能・成果	課題の意図を理解し、主体的に進め制作物を完成させる						◎
	意欲・自主性・姿勢	制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう						◎
	目的意識・共感性	—						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物		20	10	10	—	40	
	報告会を含むプロセス		10	10	10	—	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	—	30	
	合計(点)		40	30	30	—	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
7月	総合研究導入プログラム[「総合制作」授業合同プログラム](企画の立案、企画書作成、制作の開始)							
9月	前期経過報告							
10月	中期経過報告							
12月	後期経過報告							
1月下旬	制作物提出							
1月末	学内展示、合同講評会							
備考								
時間外での学修	制作ベースの授業は、制作時間が予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。授業外においても制作を行い計画的に取り組むことが求められます。							
講師の実務経験と授業の関係	グラフィックデザイナーやその他の経験を持つ講師から制作指導を受けます。必要により、各専門分野プロの講師を招聘し、それぞれの分野での実践的技術を高めます。							
受講生へのメッセージ	学びの集大成として、丹念にそして誠実な取り組みと、これまで培ってきた能力のすべてを傾けた制作を期待します。							

授業科目名	プロモーションワークA・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	—	全科共通	1・2・3・4年次	4(120)
必修・選択	必修科目／VD3・VA3・CD選択・OA選択	その他履修条件	1…全科の1年次以降 / 1…全科の2年次以降 / 3…VD3・CDの3年次以降 / 4…CDの4年次に配当 AとBの履修には、それぞれ「総合制作1」と「総合制作2」の履修が必須					
開講期	12月～3月	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	自分の制作物を伝える場である「美専展」の企画と計画、および運営を行います。 学生主体のチーム編成で、協働して展覧会を開催します。							
授業方法	学生主体による授業運営が基本です。活動全体のスケジューリングやチームの具体的な活動内容については、各チームの企画・計画に依ります。 必要に応じてスポット講師の招聘や、学校側との打ち合わせを行います。							
授業目標	知識・創意・観点	公共性の高いプロモーションと、連帯感あるチームワークに必要な思考様式を形づくる。						◎
	技能・成果	プロモーションやチームマネジメントに必要なスキルを、実働の中で身につける。						◎
	意欲・自主性・姿勢	自身の「目標」と「役割」を意識し、各チームの活動に主体的に参画する。						◎
	目的意識・共感性	大規模なクリエイティブワーク実施におけるプロモーションとチームワークの重要性を理解する。						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	評価方法							
	ポートフォリオの提出		10	10	—	—	20	
	グループワーク		10	20	10	—	40	
	受講態度(出席、取り組み姿勢、自己評価 等)		10	—	20	10	40	
	合計（点）		30	30	30	10	100（点）	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 2/3以上の出席を前提に成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 自身の設定した目標達成までのプロセス、所属するチームの活動への主体的な取り組みの度合、また事後のふりかえりも評価に加えます。							
テキスト・教材	・美専展におけるチーム活動に必要な費用(出資金)が、学生間で集金されます。 ・1年次は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。撮影費がかかります。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	授業オリエンテーション、企画書読み合わせ、美専展成功にむけたプランニング							
第2回	サブタイトル実現のためのアイデア出し、サブタイトルの決定							
第3回	TEAM決定とTEAMの目的・目標決め							
第4回～第29回	計画及び準備、美専展実施、報告会準備							
第30回	美専展報告会							
備考								
時間外での学修	基本的に授業内での活動が主となりますが、チーム毎の企画、計画によっては授業時間外の活動も必要な可能性があります。							
受講生へのメッセージ	・制作物を「どのように見せるか」は「どのようにつくるか」と同じくらいに重要な考え方です。将来、クリエイターとして活躍するには必須の マインドでもあります。この機会にぜひ身につけましょう。 ・様々な仲間との関わり合いの中で自己理解を深め、多くのことを積極的に学び取って欲しいと思っています。							

授業科目名	プロモーション講座A・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	—	全科共通	1・2年次	3(90)
必修・選択	条件付き選択必修／OA選択	その他履修条件	AとBの履修には、それぞれ「総合制作1」と「総合制作2」の履修が必須					
開講期	12月～3月	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	「プロモーションマインドの発芽」にむけ、まずは自分の学びの成果を「どのように見せるのか」ということについて学びます。 ポートフォリオ制作を基本の取り組みとしながら「美専展」などの機会を活用して総合制作での制作物をプロモーションすることもできます。 また「美専展」については、その計画及び運営にも参加が可能です。その開催にむけて自分らしく協働していくことができます。							
授業方法	主に自身のポートフォリオ制作や自身の制作物を題材に、プロモーションマインドの質の向上に取り組みます。 また「プロモーションワーク」の履修生による企画に参加し、必要な提出物にも取り組む。							
授業目標	知識・創意・観点	質の高いプロモーションのための思考様式を形づくる。						◎
	技能・成果	プロモーションに必要なスキルをポートフォリオ制作などの活動の中で身につける。						◎
	意欲・自主性・姿勢	自身の「目標」と「役割」を意識し、美専展に向けた活動へ積極的に参加する。						◎
	目的意識・共感性	大規模なクリエイティブワーク実施におけるプロモーションとチームワークの重要性を理解する。						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計（点）	
	評価方法							
	ポートフォリオの提出		20	20	10	10	60	
	美専展の運営・企画への参加や作品の展示		10	—	10	—	20	
	受講態度(出席、取り組み姿勢、自己評価 等)		—	10	10	—	20	
合計（点）		30	30	30	10	100（点）		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 2/3以上の出席を前提に成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業期間内に開催されるポートフォリオ講座への参加は必須です。 自身の設定した目標達成までのプロセス、美専展に向けた活動への積極的な取り組みの度合、また事後のふりかえりも評価に加えます。							
テキスト・教材	・ポートフォリオ制作や制作物の展示に必要な素材・備品は基本的に自分で準備してください。 ・「美専展」に作品を展示する場合は、主に会場費が「プロモーションワーク」の履修生により集金されます。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	授業目的の確認、サブタイトルの決定							
第2回	役割の決定、チームの計画案作成							
第3回	ガントチャートの作成							
第4回	ポートフォリオ講座							
第5回～第29回	ポートフォリオの制作、美専展準備							
第30回	美専展報告会							
備考	1年次は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。別途写真代が必要になります。							
時間外での学修	基本的に授業内での活動が主となりますが、企画、計画によっては授業時間外の活動も必要な可能性があります。							
受講生へのメッセージ	・制作物を「どのように見せるか」は「どのようにつくるか」と同じくらいに重要な考え方です。将来、クリエイターとして活躍するには必須のマインドでもあります。ポートフォリオの制作や作品展示の計画を通して、ぜひ身につけましょう。 ・美専展やそれをめぐるTEAM活動との関わり方は一つではありません、それぞれに自分なりのやり方で協働していきましょう。							

